

令和 4 年度

横浜市立高等学校
及び
併設型中学校
自己評価書

横浜市立南高等学校附属中学校

<学校情報>

1 課程・学科 併設型中高一貫教育校

2 学校長 遠藤 広樹 (令和4年4月1日現在 在職2年目)

3 学校教育目標

- ① 学びへの飽くなき探究心をもつ人材の育成 《知性》
- ② 自ら考え、自ら行動する力の育成 《自主自立》
- ③ 未来を切り拓く力の育成 《創造》

4 教育方針

- ① 国際社会で活躍するリーダーの育成を目指す学校
- ② 6年間の一貫教育で健全な心身をはぐくむ学校
- ③ 質の高い学習により、高い学力を習得できる学校
- ④ 生徒が互いに切磋琢磨し、常に活気に溢れている学校

5 教職員数 (令和4年12月1日現在)

学校長 1 校長代理 1 副校長 1
教諭 21 (男 12、女 9) 養護教諭 1
事務職員 1 技能職員 2
A E T 1 非常勤講師 4

6 生徒在籍数 (令和4年12月1日現在)

年次(学年)	学級数	男子	女子	合計
1	4	81	80	161
2	4	80	79	159
3	4	70	89	159
合計	12	231	248	479

7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		21	21	100%
生徒	1年	161	156	96.9%
	2年	159	148	93.1%
	3年	159	141	88.7%
	合計	479	445	92.9%
保護者		479	349	72.9%

8 自己評価実施日

地域	令和4年11月
教職員	令和4年11月7日～令和4年11月14日
生徒	令和4年11月14日～令和4年11月18日
保護者	令和4年11月15日～令和4年11月24日

9 集計・分析期間

令和4年11月24日～令和5年2月28日

10 自己評価書の公表方法・時期

- ・ 南高等学校附属中学校ホームページ 令和5年6月～

<自己評価>

1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

「中高一貫教育校として中高の連携・共同による魅力ある学校づくり」

- 中高一貫教育課程の編成と実施
- 教職員の研修の充実と指導力の向上
- 中高教職員の創意工夫と協力による活気溢れる学校組織の確立と運営

□魅力ある学校教育の推進状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】1, 2, 3 生徒1,10,11 保護者1, 2)

<p>取組</p>	<p>① 本校独自の教育課程については、入学前の学校説明会や学年だより、ホームページ等で広く周知徹底を図った。また、各教科だけでなく『EGG(総合的な学習の時間)』を通して、「豊かなコミュニケーション能力」「論理的な思考力」「幅広い教養と社会性」「多様性を尊重する態度」等々を高める活動を時期内容等、工夫して行った。卒業生や外部講師による講演会を計画・実施した。</p> <p>② 学校のグランドデザイン(経営全体構想)をもとに、新しい学習指導要領の理念に即して、カリキュラム・マネジメントに取り組んだ。中高の6年間を見通して、指導と評価の一体化を目指し、中高職員がお互いに授業参観及び研究協議を行う研修を実施した。</p> <p>③ 新型コロナの影響でここ数年実施できなかった学校行事の在り方の見直しを行った。</p>
<p>成果</p>	<p>① 教職員評価項目1「魅力ある学校づくりに向けて学校全体として取り組んでいる」については81.0%、保護者評価項目1, 2「中高一貫校として特色ある教育活動の取組」「教育課程は充実している」については、ともに全学年85%以上がそう思うと答えている。また、保護者アンケート項目9「学校生活の様子を家庭へ十分かつ適切に伝えている」については85%以上の評価を受けており、本校の特色ある教育活動については、引き続き高い評価を受けている。</p> <p>② 中高合同教育課程委員会を設置し、中高の6年間を見通して、指導と評価の一体化を目指し、中高職員がお互いに授業を参観し、研究協議を行うことができた。中高授業研究会では「新学習指導要領に対応した学習評価の研究と実践」について研修し、中高それぞれの職員の授業力向上に役立てることができた。</p> <p>③ 令和3年度まで開催できなかった南高祭を2年ぶりに、合唱コンクールを3年ぶり中高合同で開催することができた。また、部活動などで中高協力した取組が進んだ。</p>
<p>課題</p>	<p>① 本校の特色の一つ『EGG(総合的な学習の時間)』については、3年間を見通した指導計画に則り、概ねねらいを達成し、生徒にとって充実した活動になっている。令和3年度よりは実施できたものが多かったが、まだ選択研修は実施に至っていない。</p> <p>② 各教科でより連携を深め、中高6年間の指導及び評価計画をもとに新学習指導要領を実施し、今後も継続してカリキュラム・マネジメントに取り組んでいくことが必要である。</p> <p>③ 行事については、昨年よりも実施できたものが多かったが、体育祭は中高合同開催することができなかった。また、現中1, 2年生カナダ研修旅行の一時停止を受け、生徒・保護者に大きな喪失感を与えたと考えられる。</p>
<p>改善策</p>	<p>① 『EGG(総合的な学習の時間)』については、今後もこれからの時代に求められる資質・能力を高める内容への変革を図ることに取り組み、より興味深い講座やテーマの見直しを引き続き行っていく必要がある。</p> <p>② 中高一貫教育校としての教育課程について、年度当初だけでなく定期的に研修を行い、カリキュラム・マネジメントに取り組む。</p> <p>③ 社会情勢を鑑みつつ、生徒・保護者・教職員が創意工夫し、学校行事や生徒会活動の充実を目指していく。</p>

2 教育活動の状況

■教科指導の状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】4,5,6 生徒9 授業評価 保護者2)

取組	<p>① 感染防止対策と、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現の両立を図るため、新たな授業形態を模索するなど、授業改善に取り組んだ。</p> <p>② 10月に実施した中高合同の授業研究会では、中高の各教科会において生徒の実態や目指す生徒の姿などについて話し合い、6年間で身に付けさせたい資質・能力の共有を図りながら、研究授業と研究協議を行った。</p> <p>③ 「EGG（総合的な学習の時間）」については、校外での活動をともなうプログラムなど、例年通りの実施が困難なものも多かったが、1年生の「プロジェクトあしがらアドベンチャー」や「構成的グループエンカウンター研修」などのいくつかのプログラムは、計画を変更して実施することができた。また、令和2年度の課題・改善策として挙げられていたカリキュラムの見直しについては、学習指導部を中心に検討を重ね、おもに2年生の「EGGゼミ」のカリキュラムを一部変更して実施した。</p>
成果	<p>① 言語活動や観察・実験等を行う際の授業形態を工夫することにより、各教科等において、生徒の主体的・対話的で深い学びを促すことができた。</p> <p>② 中高合同の授業研究会において、各教科で身に付けさせたい資質・能力の育成について話し合い、実践する機会をもったことにより、6年間を見通した指導の方向性がより明確になり教科のチーム力の向上につながった。</p> <p>③ 1年生の「プロジェクトあしがらアドベンチャー」や「構成的グループエンカウンター研修」などのプログラムが実施できたことは、人間関係の構築やコミュニケーション力の向上のために大変有意義であった。また、「EGGゼミ」のカリキュラムの一部変更については、ねらいや目指す生徒の姿などを踏まえ、学習指導部と当該学年が連携して学習内容を立案し、実施することができた。</p>
課題	<p>① 令和3年度より新学習指導要領の全面実施にあたって、特に学習評価の在り方について教員一人ひとりが理解を深め、各教科等や学校全体で共通理解を図りながら、指導と評価の一体化を進めていくことが必要である。</p>
改善策	<p>① 学習評価に関する資料（『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』など）を活用し、新学習指導要領における学習評価の在り方について、教科主任会や各教科会等で改めて共通理解を図る。併せて、日々の授業や教育課程説明会等において、年間指導計画や単元ごとの指導計画を生徒・保護者に示し、学習評価の目的や方法等についての理解が十分に得られるようにする。</p>

■総合的な探究（学習）の時間の状況

（関連アンケート番号：生徒9）

<p>取組</p>	<p>① 生徒一人に一台ずつ支給されたクロムブックを、各学年とも、課題探究学習の各段階に利用している。</p> <p>② 2年生 EGGゼミを全3期に整理して、各期に課題探求学習の各段階のポイントを置いて活動している。</p> <p>③ 2年生の英語集中研修を校内実施から、東京グローバルゲイトウェイ（TGG）利用実施に変更し2年目となった。</p> <p>④ 2年生の従来の選択 EGG 講座の代わりに、校内での必修講座を複数設定した。</p> <p>⑤ 1年生の最初の EGG 体験である PAA を、4月に現地で実施した。</p> <p>⑥ EGG 係が中高国際企画部となり、活動している。</p>
<p>成果</p>	<p>① 各学年とも、資料収集、資料整理、スライド作成、論文作成など、課題探求学習の各段階でクロムブックを利用することができている。</p> <p>② 昨年度カリキュラムを整理した2年生 EGG が、今年度は本来のねらいに沿った順序で実施することができた。また、全3期の活動に一貫性のある個人テーマを設けることができた。必修講座はどの講座も特徴があり、興味深いものになっている。</p> <p>③ 今年度は3年ぶりに、PAA を4月に足柄で実施することができた。様々な小学校から入学してくる新生生にとって最も適切な時期に行えたことは大きな意義がある。</p> <p>④ 中高国際企画部定例会により、高校 TRY & ACT についての情報や、留学やホームステイ受け入れなど海外と直接つながる活動の情報が得られるようになっている。中入生保護者説明会で高校の先生から留学について説明していただけるようになっている。</p>
<p>課題</p>	<p>① クロムブックを利用する際に、課題（資料収集のネット検索偏重、「コピペ問題」、利用時のルール）が生じやすい。</p> <p>② カナダ研修旅行が中断された影響もあり、中学生の海外留学への希望が増えてきている。中学校にも海外と直接つながる活動の情報の発信が期待されていると考える。</p>
<p>改善策</p>	<p>① 今年度はクロムブック利用時のルールに学年によるばらつきはなかったが、今後も引き続き、係で情報共有をしていく。引用資料の吟味や「コピペ問題」については、毎年必ず繰り返し指導をする。</p> <p>② 中学校の国際企画部の中にも、高校の先生方にアドバイスやご協力をいただきながら、海外と直接つながる活動の担当をつくる。</p>

□生徒会活動・学級指導の状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】7、8 生徒2 保護者4)

取組	<p>① 「附属中学校の生徒会活動の方針」に則って、全職員で学校行事や委員会活動、学級活動の指導にあたった。</p> <p>② 生徒会本部および生徒会企画委員会から「中学生の主体的な活動」を目指す発信をし、種々の取組を実施した。</p> <p>③ 中高連携の生徒会活動のスリム化と充実を図るため、中高の生徒会本部役員による定例会を実施した。</p>
成果	<p>① 各委員会および生徒会本部の活動において、生徒主体で年間活動計画や予算を立てて活動し、日々の活動や行事の企画・運営を行うことで、「中学生としての活動」が充実している。</p> <p>② 生徒会企画で3学年間の生徒の交流会を行うことができた。各学級と生徒会企画委員会での検討を重ねることで、生徒自身が自分たちの手で話し合いながら物事を決定し、運営していくことを学ぶことができた。</p> <p>③ 中高の生徒会本部役員による定例会によって、中高の役員同士の関係が深まり、委員会の活動状況の共有をすることができた。</p>
課題	<p>① 生徒集団のリーダーシップやフォロワーシップの育成は、学級や学年、全校など多角的な視点から行われていくことを全職員が共通認識として持ち続けていくことが必要である。</p> <p>② 生徒評価項目2「生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている」の数値が他項目と比較して低いことから、学級活動を含む生徒会活動への参画意識をもたせることが課題である。また、行った活動に対する評価活動を充実させることで、肯定感の向上を図りたい。</p> <p>③ 中高合同で活動する学校行事や生徒会活動のスリム化と充実が課題である。</p>
改善策	<p>① 学級係活動は「一人一役」を前提に、単なるルーティン化や形骸化しないように、年度途中で学級や学年で係活動の振り返りを設定し、生徒自身による活動の充実や創意工夫をうながすなど一層の活発化を目指していく。</p> <p>② 学校行事、学級係活動、委員会活動など具体的な場面や振り返りの中で、生徒の活動を具体的にほめながら、「主体的な生徒会活動」に気づかせていく。</p> <p>③ 中高合同で活動する学校行事や生徒会活動のスリム化と充実に向けて、新高1と新中3が連絡を取りつつ委員会活動を引き継げるような関係性の構築を促す。また、高2が中高の学校全体に関わる運営を行う一方で、高1と中3がそれぞれの学校の窓口となることを自覚させ、連携のとれた円滑な中高合同の活動となるよう継続して支援していく。</p>

□生徒指導の状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】9 生徒3、4 保護者3、5)

取組	<p>① 生活委員会において、委員長を中心に生徒が主体となって議事進行、企画運営を行った。令和4年度は生活標語づくり、マナーブックの発行、生徒への呼びかけを行った。</p> <p>② 生活部と養護教諭やSCを交えた生徒指導情報交換会を毎週実施し、管理職を交えたいじめ防止対策委員会を月1回以上実施し、情報交換と指導方針の確認をした。令和4年度は、SSWとケース会議を実施できた。</p> <p>③ 中高生活部のセクション会で、生徒指導の情報交換をすることができた。</p>
成果	<p>① 港南区の防犯サミットに向けて、「インターネットにおけるトラブル」について調査・研究し、報告書を提出した。また、いじめ防止についての発表を生活委員会の担当で検討し、学年集会で発表することで、自分事としてとらえることができた。</p> <p>② 職員反省アンケートで生徒指導の取組がきちんとされているという項目が「十分に」と「おおむね」で85%だった。生徒理解と情報交換に基づいて、生徒指導ができた。</p> <p>③ 中高セクション会により、中学校の職員と高校の職員が毎月細かい生徒指導情報の交換ができるようになった。</p>
課題	<p>① 令和4年度も、地域の方から登下校時のマナーに関して、ご意見をいただくことがあった。上大岡方面の狭い歩道でのすれ違いやバス車内の混雑、上永谷方面の住宅地での広がりなどで迷惑をかけてしまっている。</p> <p>② 生徒アンケート項目4「いじめや差別を許さない環境づくり努めている」で、「そう思う」が、中1が56.4%、中2が52.3%と評価が低かった。</p> <p>③ 問題行動があった際の対応を、中高セクション会で情報共有しながらすすめられないことがあった。</p>
改善策	<p>① 新入生が入学してから早い段階で登下校のルールやマナーについて、学級活動の時間や学年集会などで説明をするとともに、登下校推奨ルートを集団下校にて確認をする。</p> <p>② アンケート項目4「そう思う」「ややそう思う」の数值は89.7%あることから、自信をもってはっきりと生徒がいじめ防止に取り組んでいると言えるように、生活委員を中心に生徒自身による取り組みを推進していく。</p> <p>③ 各学年の生活部を中心に、中高の主任が連携をとって、セクション会や情報交換会などで生徒指導の方針の確認をする。学校全体で生徒指導に取り組む態勢を整えていく。</p>

□保健指導・環境美化の状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】10、11生徒5、6 保護者6、7)

取組	<p>① 令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防・感染拡大防止のため、横浜市のガイドラインに従って学校内の消毒の徹底に力を入れた。11月よりガイドラインの一部変更に伴い、健康観察の方法や教育活動での制限に変更があったが、感染予防の意識を保ちながら教育活動を行った。</p> <p>② 今年度より生徒が主体となり、継続的に校内の課題を探っていくため、学校保健委員会に大テーマ「附属中生を健康にする第1歩」を設けた。今年度のテーマは「睡眠とブルーライト」に設定し発表を行った。生徒たちは1～3年生合同の3グループに分かれ、テーマに沿った全校アンケート、調べ学習、スライドの作成、劇の出演に取り組んだ。今年度は、Chromebook、iPadを活用し、生徒自身でスライドやビデオの撮影などを行うことができた。</p> <p>③ 学校保健計画にある保健教育も一部、講師を招き、実施することができた。</p> <p>④ 今年度もゴミの持ち帰りを継続し、高校と連携して持ち帰りの呼びかけをおこなった。また、校内美化推進のため、駐車場近くのプランターの花の植替えを、南高祭の前にも1回増やして、年3回行った。</p>
成果	<p>① 横浜市のガイドラインの一部変更後も従って、全職員で学校内の消毒を適切に行うことができた。また毎日の健康観察、手洗い、消毒、マスクの着用等、生徒の感染防止に対する意識は高く、概ね実施できている。</p> <p>② 保健美化委員の学校保健委員会に向けた取り組みは、グループごとに協力し素晴らしい発表を行った。大テーマを設けたことで、目的がはっきりし、日常生活の中での場面を想像しながら発表内容を考えることができた。ビデオでの発表にしたことで、全校生徒に参加してもらうことができた。ICTの活用には生徒も教員も不安な面があったが、生徒は達成感を持つことができていた。</p> <p>③ 保健教育では、港南区福祉保健センターの栄養士さんをお招きし、3年生へ「食」の指導を行い、朝食をメインに、成長期に必要な生活習慣について学んだ。また、学校薬剤師による「薬物乱用防止教室」も3年生へ行うことができた。</p> <p>④ 自分で出したゴミは持ち帰るという習慣が身についた。プランターに花があることで、校内が明るくなり、生徒の美化への意識が高まったと思われる。</p>
課題	<p>① 校内では一定の感染対策は行えているが、3年目となる慣れや国レベルで対策が緩和されつつあることも影響し、冬場の手洗いの頻度さがらみられた。</p> <p>② 学校保健委員会は全校参加型の形を模索しているが、学校医や保護者などの参加が再開できていない。今後は、幅広い視野を持ちテーマを検討していきたい。</p> <p>③ 保健教育では、毎年計画を見直し、それぞれの学年に必要なテーマで講師を招いて行う実施する方法について検討していく必要がある。</p> <p>④ 各階に設置したゴミ箱内の、ゴミの分別ができていないことが何度かあったため、校内でのゴミ捨てについて検討していく必要がある。</p>
改善策	<p>① 社会の動向に合わせて、その時にあった感染症対策を行っていく必要がある。国や横浜市のガイドラインなどを参照に、生徒・各家庭とも連携がはかれるよう、お便り等で学校での取り組みや最新情報等を発信する。</p> <p>② テーマは大テーマを元に、本校の健康課題を探りつつ、全校生徒にとって有意義になるように考えていきたい。また、学校医、保護者へはICTを活用し、来校せずとも参加してもらえ体制づくり等を引き続き、考えていきたい。</p> <p>③ 学年職員とテーマや指導内容を検討し、講師を招けない場合でも、必要な保健教育が適切に行えるよう、指導の形態、内容等を検討する。</p> <p>④ 中高で連携し、ゴミの持ち帰り、分別について、生徒の委員会活動を通して呼びかけを行うなど対応を継続していく。</p>

3 学校経営の状況

■学校教育目標、経営方針の推進状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】12、13 保護者1、2、4)

取組	<p>① 生徒（児童）・保護者に対して、本校開設の経緯や学校教育目標、学校経営の方針について、学校説明会や保護者会、学校だより、5月の教育課程説明会等を通して説明を行った。生徒に対して学校教育目標を分かりやすく理解させるために、1年生においてはその解釈を話し合い、理解を深め、内容を工夫して掲示・発表する活動を続けている。</p> <p>② 中高接続の取組として3年生を対象に生徒・保護者合同の南高校進学説明会を実施し、内進者へ高校教育についての周知と心構えの育成を図った。</p> <p>③ 「豊かな人間性の育成」を目指し、各学年の発達段階に応じて重点項目を決め、道徳や『EGG』、特別活動等で指導した。企画会において、各学年の取組を確認し、3年間のつながりを図った。</p>
成果	<p>① 保護者アンケートでは、すべての項目において85%以上の評価を受けており、本校の教育活動に一定の理解を得ることができた。</p> <p>「生徒アンケート項目10「南高附属中の生徒であることを誇りに思っている」については、3学年共に90%以上の生徒がそう思うと答えており、本校の理念を理解し、前向きに活動に取り組んでいる生徒の姿が表れている。</p> <p>教職員評価項目12「学校教育目標の実現に向け、全職員が取り組んでいる」については90%以上という結果がでた。本校が教育活動の目標に向けて組織的に取り組んでいるということである。</p>
課題	<p>① 本校の教育活動については、成果にもあるとおりの満足度が得られているようだが、更なる中高一貫の行事開催や連携を求める意見も複数ある。また、カナダ研修旅行の一時停止を受けて、グローバルな人材育成にむけた教育活動の継続に不安を感じる意見も見られる。</p> <p>教職員の異動にあたり、これまでの学校経営方針をスムーズに受け継ぎ、発展させていくことが必要である。</p>
改善策	<p>① 日常の教育活動について、説明会という場だけでなく、学校だよりやホームページ等で発信し周知を図る取組を今後も継続していく。また、3年生とその保護者を対象に行われている高校進学説明会を南高校への進学意思決定の時期を考慮し、高校の進路指導部と連携して秋に実施していくとともに、教育課程説明会でも説明を行う。</p> <p>年度当初に学校経営方針を全職員で確認する研修会を位置づけ、中高一貫教育校の開校にあたっての理念や、それに基づく特色ある教育内容についての共通理解を図る。また、グローバルな人材育成にむけた教育活動を検討していく。</p>

□職員組織・学年経営の状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】14、15、16)

取組	<p>① 定例の学年会、部会（教務・総務・生徒指導・学習指導）、企画会、職員会議を計画的に設定し、議題調整と学年間の情報を事前に共有した。</p> <p>② 中高統一の校内組織を整理し、業務の組織対応を進めた。</p> <p>③ 企画会を議題調整会議としてだけでなく、管理職と主幹教諭が協働して、学校運営に関わる内容を検討する会議とした。人事決定についても、学年経営が円滑に進むように、積極的に学年主任の意見を取り入れた。</p> <p>④ 中高管理職の連携を大切にし、情報の共有や連携した対応を進めた。</p>
成果	<p>① 教職員評価項目 15「各学年の運営は、情報が共有され組織的取組が円滑に行われている」が、100%という高い評価となった。学年主任を中心に情報の共有や連携した対応に努め、チームとしての学年経営が行われている。</p> <p>② 教職員評価項目 14「一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織である」が 85.7%となり、昨年(83.3%)より改善がみられる。</p>
課題	<p>①② 教職員評価項目 16「会議が効率的に運営され、教育活動や学校運営の計画等共通理解が図られる場になっている」が 66.7%と検討を要するものとなっている。勤務時間を超えて会議を設定せざるをえない状況が続いていることや、中高の校内組織編成に要因があると思われる。</p>
改善策	<p>① ② 会議日の設定を含めた年間行事予定の見直し、校務支援ツール等を有効活用した会議以外の情報共有の改善を進め、会議の効率化を図り、職員の負担感を軽減する努力を続ける。</p> <p>①② 中高で統一した校内組織が運用され、さらに改善が進むように取り組みたい。大きく変化する組織に戸惑わないように、企画会を利用し、情報共有をより一層強化する。中高連携に関する業務の軽減を図る。</p> <p>①②③ 働き方改革の視点から、教育活動の質を維持しつつ内容を精選し、より教育効果の上がる取組を検討する。</p>

■職員研修・研究の状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】17)

取組	<p>① 校内における授業力向上研修を中高全職員で行った。今年度は「新学習指導要領に対応した学習評価の研究と実践」をテーマとし、職員一人ひとりの日々の授業改善に向けた意識の向上を図った。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組を各教員及び各教科で行った。校内研究授業と中高合同教科会を行い、各教科において、6年間を見据えた取組を検討した。</p> <p>② 学校経営アドバイザーの坂野先生による講演会「中高6年間を見通したカリキュラムマネジメントの推進」を開催した。</p> <p>③ 学校経営アドバイザーの高木先生による授業研修会を年2回実施した。</p> <p>④ 他校への授業視察、公開授業研修会への参加を推進した。</p> <p>⑤ 英語科において、学校経営アドバイザーの金谷先生、西村先生による定期的な授業研修会を行った。他校からの視察も多く受け入れ、情報の共有及び提供を行った。</p>
成果	<p>① 授業力向上研修の授業者だけでなく、他教科等多くの職員が研究授業に関わることで、自身の授業の在り方について考え、授業改善に取り組むことができた。</p> <p>② 今年度は中高合同教育課程研究委員会を設置して企画・準備を進め、教科ごとに授業日を設定することで円滑に研修を行うことができた。</p> <p>③ ④学校経営アドバイザーによる講演会や授業研修会を通して、一人ひとりが、より良い授業づくりの方向性について考えることができた。また、高木先生より個別のアドバイスをいただき新教育課程の情報の共有化を図るとともに、今後の学習活動の方向性などについて改めて考えることができた。</p> <p>④ 複数の教員が、他校の取組を視察し、本校での授業実践に反映させることができた。</p> <p>⑤ 本校の英語教育の特色であるラウンド制について、更なる授業力の向上を図ることができた。</p>
課題	<p>① 各職員の日々の授業改善に向けた意識をさらに向上させ、継続的な授業力向上に向けた取組を今後も進めていく必要がある。</p> <p>① 現在の状況等を考慮にいれながら、研修会の時期や持ち方について、中高合同教育課程研究委員会で検討を重ねていく必要がある。</p> <p>② ③講師による講演会、授業研究会については、今後も講師との連携を深め、有意義な内容となるよう、検討を進め、授業力の向上に向けた取り組みをさらに活性化させていくことが必要である。</p> <p>② 他校の取組や研究を取り入れたいという教職員の意欲はあるが、十分な研修時間の確保が難しい現状である。</p>
改善策	<p>① 次年度も引き続き、校内における研究授業や教科会を行うことで、6年間を見据えた取組を検討し、各職員の授業力向上に向けた取組を継続していく。</p> <p>② ③講師による講演会、授業研究会については、今後も講師との連携を深め、有意義な内容となるよう、検討を進め、授業力の向上に向けた取組をさらに活性化させていきたい。</p> <p>④全職員が負担なく、日常的に研修を進めていくことができる環境づくりを進めていく。</p>

□学校経理、施設設備および情報の管理状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】18、19、20、21 生徒 9、10 保護者 7、8)

<p>取組</p>	<p>① 配当予算を管理職及び各教科・担当と連携したうえで編成をし、特にコロナ対策を重点とし教育環境の整備を行った。 ② 公金及び準公金の透明性確保のため、保護者や市民に対して積極的に情報公開を行った。 ③ 教育委員会の通知等に従い、情報担当及び管理職と情報を共有し、個人情報の保護を適切に行った。</p>
<p>成果</p>	<p>① 消毒液の購入及び教科備品の更新を行うなどの要望に応え、95%以上の評価を得ている。 ② 公金においては本校ホームページ上及び学年だよりにて、準公金においては会計報告書において通知を行い、その結果 93%以上の評価を得ている。 ③ 教育委員会の指示通りに管理を行い、95%以上の評価を得ている。</p>
<p>課題</p>	<p>① 今後は、コロナ対策に予算を配分しつつ、物品の整備を管理職及び教科担当と協議し実行する必要がある。 ② ホームページ及び学年だより等での報告であるため、限られた内容となっており、より分かりやすい情報発信が必要である。 ③ 情報セキュリティ対策に万全ということはなく、常に情報を更新していく必要がある。</p>
<p>改善策</p>	<p>① 予算委員会時だけでなく随時各担当と協議を行い、感染症対策及び教育効果のある物品の整備をしていく。 ② ホームページ及び学年だよりにての報告の際、執行内容の具体例を数多く入れる等わかりやすい説明を行う。 ③ 最新の情報を職員に対して迅速に知らせていくだけでなく、個人情報保護の重要性を周知していく。</p>

□保護者・地域との連携協力の状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】22、23)

取組	<p>① 中高一貫教育校として高校と一体の組織で、PTA活動を行っている。 例年は中学校のPTA独自の活動として、PTA中学校懇話会を開催し、情報交換をしていたが、令和3年度に続き令和4年度も中止した。</p> <p>② 令和3年度に引き続き令和4年度も、PTA主催の研修懇親バス旅行の中止、体育祭等の行事・EGG等の発表会で保護者の参観を呼びかけは行わなかった。南高祭には、受付でPTAの協力も得て、保護者の参観をすることができた。</p> <p>③ ホームページ(附属中日記)や学年だより等で、学校の教育活動の情報提供を行い、保護者、地域等との連携協力を図っている。</p>
成果	<p>① 感染拡大防止のため制限はあったが、南高祭への保護者参観やPTA中高合同懇談会を実施することができた。卒業式についても保護者参観をする計画ができた。</p> <p>② 教職員アンケート質問項目23で、「そう思う」「ややそう思う」が81.0%との評価を得ることができた。</p> <p>③ 保護者アンケート質問項目9で、「そう思う」「ややそう思う」が85.3%との評価を得ることができた。</p>
課題	<p>① 感染症拡大防止とPTA行事の再開の見極めの難しさがあった。</p> <p>② PTA行事を再開した際に、過去のノウハウが失われ、スムーズに企画・運営できない部分があった。</p> <p>③ 教職員アンケート質問項目22「PTAとの連携・協力の推進が図られている。」が令和3年度は95.8%だったが、76.2%と低くなった。</p>
改善策	<p>① 感染症拡大防止を第一としながら、「できる人が、できる時に、できる事を！」という本校PTAのキャッチコピーに基づき、活動する。</p> <p>② 行事の企画・運営の際に、過去のデータの整理をすすめる、教職員間・PTA間の情報共有をすすめる。</p> <p>③ PTA行事を再開する際に、多くの教職員に参加してもらい、PTAとの連携の強化を図る。</p>

□危機管理の状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】24、25生徒10)

取組	① 4月の校内避難経路確認実施後、これまでの避難経路の在り方について見直しを図り、その後各学級において、改めて避難経路の徹底を図った。また、9月に大規模地震発生時の初期対応について各学級で、大規模地震発生時の校舎内における避難の在り方についてシミュレーションを行った。 ② 校舎内の階段の呼称変更を徹底し、避難時の混乱防止と生徒の意識の向上に努めた。
成果	① 大規模地震発生時の初期対応についてシミュレーションを行ったことで、災害対策本部を中心とした発災時の各職員の具体的な動きや分担について整理し、周知することができた。 ② 防災委員会を中心に中高で連携し、各学級・各教室の避難経路の見直しを行った上で、校内の各階段が呼称変更されたことを確認し、発災時の避難経路について生徒に改めて周知徹底を図ることができた。
課題	① 大規模地震発生時の初期対応について、定期訓練のみならず、突発的な訓練を行うことで、災害に対する意識を高めるとともに、想定外の事案を訓練の場において生徒・職員共に数多く経験することで、実際に大規模地震等の災害が発生したときの混乱防止に努めていかねばならない。 ② 防災・減災用の備品の整理や補充を確実にを行い、発災時の物品不足の予防に努める。
改善策	① 今後も引き続き、発災時の対応について整理・改善を行い、その都度職員全体に周知徹底を図っていく。また、様々な訓練のパターンを生徒・職員で経験し、共有することで、各個人の災害に対する意識の向上と、判断力・行動力の育成に努める。 ② 発災時に必要な物品の情報整理と補充を行う。また、防災委員会を中心に、防災倉庫の点検作業等を定期的に行い、職員間での情報共有を確実にを行う。

□学校に関する情報公開の状況

(関連アンケート番号：教職員 26 生徒 12 保護者 9)

<p>取組</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症に配慮しつつ、令和3年度は中止になっていた南高祭において人数の制限付きではあるが保護者に来校していただいた。各種説明会についても、対面にて生徒や保護者に対して必要な情報提供を行った。合わせて、メール配信システムを利用した情報提供も随時行った。</p> <p>②学校ホームページでは、全職員で日々の授業風景や学校生活の様子を紹介していく「附属中日記」を定期的に更新した。また、入学関係情報を適時発信し、本校の受検を考えている児童、保護者に向けても幅広く広報活動を行った。学年だよりでは、学校・学年行事やEGG学習の様子などを生徒の声とともに掲載し、各家庭に配布し、且つホームページにも掲載を行った。</p> <p>③入試に関する広報活動の範囲が限定される状況であったため、「学校 YouTube チャンネル」で学校見学会や志願説明会の説明動画を配信した。また、「横浜市電子申請システム」を利用した事前予約制の「学校見学会」を設けるなど、広報活動の充実を図るための取組も行った。</p> <p>④個人情報の取り扱いについては、年度初めに保護者へ文書を配布して運用のしかたを周知するとともに、学校ホームページに個人が特定される情報を公開しないなど、適切に管理した。</p> <p>⑤学校運営協議会における学校評価や生徒、保護者学校評価の結果を公開し、開かれた学校づくりに努めた。</p>
<p>成果</p>	<p>①南高祭には各家庭2名までの制限付きではあったが、多くの保護者に来校していただくことができた。授業参観や各種説明会等も令和3年度よりも人数制限を緩和して行うことができ、多くの保護者から評価をいただいた。</p> <p>②学校評価の「ホームページや各種たより等での情報公開」の項目において、生徒からは90%以上、保護者からは85%以上の評価を得た。学年だよりでは、学校・学年行事やEGG学習の様子などを生徒の声とともに掲載した。各家庭に配布し、且つホームページにも掲載を行った。附属中学校の課題およびその取り組みを、各家庭や諸機関に伝えることができた。全クラスではないが、クラス担任による学級通信でも生徒の様子を伝え、多くの保護者から好評をいただいている。</p> <p>③「学校 YouTube チャンネル」で学校見学会や志願説明会の説明動画を配信したところ、学校見学会の再生回数は2450回、志願説明会の再生回数は1824回となった。(令和5年2月22日時点)。来校が制限される中での配信は効果が見られたと思われる。</p> <p>④個人情報の適切な管理に努め、職員学校評価における「情報管理」の項目で100. %の高い評価を得た。</p>
<p>課題</p>	<p>②GIGAスクール構想による一人一台の端末の整備が行われ、日々の授業等において活用される場面が令和3年度よりもさらに多くなってきた。しかし学級閉鎖中や濃厚接触者で登校できない時のオンライン授業等、学校と家庭との「双方向」の情報通信については万全の準備が整っているとはいえない状況である。各種説明会等においても配信を望む声が散見している。</p> <p>③学校見学会に来校できる児童を小学6年生に限ったため、受検を考えている小学5年生以下の保護者からの問い合わせを多く頂いた。学校の様子をより広く周知できる手立てが必要である。</p>
<p>改善策</p>	<p>②教職員のICT活用能力(特に、学校と家庭との「双方向」の情報通信に関するスキル)の向上を目的とした校内研修を行う。また、GoogleクラスルームやGoogleミートなどのアプリケーションを日々の教育活動において積極的に活用し、生徒のICT活用能力の向上も促していく。</p> <p>③より多くの方々に学校の様子を理解していただくために、ホームページの掲載内容等をさらに充実させる。また、地域広報誌(タウンニュース等)でも本校の取組を広く発信していく。</p>

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応

(関連アンケート番号：教職員 27 生徒 3、4 保護者 3)

取 組	<p>① 職員によるいじめ防止対策委員会を月1回開催し、各学年の生徒情報共有や、学校いじめ防止基本方針の改訂について話し合った。</p> <p>② いじめに関するアンケートを12月に横浜市の統一書式により無記名で実施した。5月と11月に記名式のアンケート（Hyper-QU）を行った。</p> <p>③ 4月と9月に、全クラス担任による教育相談を実施した。より安心して充実した学校生活に向け、校長代理による面談を1年生を対象として行った。</p> <p>④ 学級活動や道徳、総合的な学習の時間でコミュニケーション力を高め、安心して生活できる環境づくりをおこなった。</p> <p>⑤ 生活委員会の生徒が学年ごとにいじめ防止の取り組みを行った。</p>
成 果	<p>① いじめ防止基本法の定義に基づき、いじめはどこにでも起こりうるということの共通認識のもと、職員による情報収集をした。いじめ防止対策委員会がいじめに関する情報を共有し、組織として対応することができた。</p> <p>② 各種アンケートの結果から得た客観的なデータと普段の先生方の見取りとを合わせて、生徒理解を深めることができた。令和3年度に改良したHyper-QUの分析シートで、生徒の困り感を丁寧に読み解くことができた。</p> <p>③ 教育相談により、生徒と担任の関係を築くことができ、何か困ったことがあったときに安心して相談できるようにした。</p> <p>④ グループワークトレーニングにより、仲間と協力して課題解決する姿勢ができた。</p> <p>⑤ 生活委員会のいじめ防止メンバーが、12月に学年集会でいじめ防止のための発表をし、生徒自身がいじめの未然防止に取り組むことができた。</p>
課 題	<p>① 令和4年度はいじめ認知件数は8件であった。</p> <p>② 教職員アンケート27「いじめへの対応」で「十分に」と「おおむね」で100%を達成できたが、「おおむね」が多く71.4%であった。</p>
改善策	<p>① いじめ認知をためらわずに積極的にいじめを認知し、生徒が安心して学校生活を送ることができるように解決に向けた支援を行っていく。</p> <p>② 普段の授業で行っているグループワークや道徳、『EGG』などがコミュニケーション力の育成につながり、いじめの未然防止につながることを年度初めの研修などで職員に伝える。授業・取り組みのねらいを生徒にも伝え、意識付けを行う。</p>

令和4年度

横浜市立高等学校
及び
併設型中学校

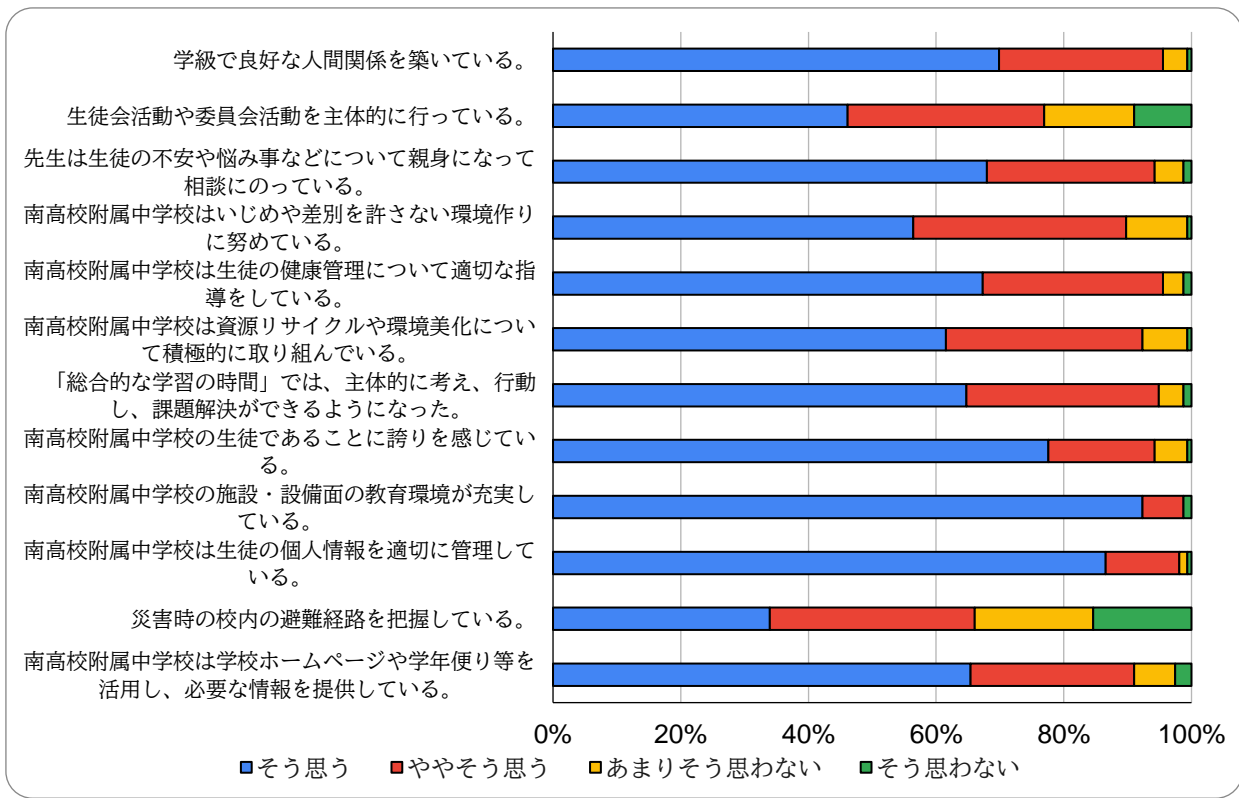
自己評価書資料
学校評価アンケート集計表

生徒アンケート
保護者アンケート
職員アンケート
各教科授業評価

横浜市立南高等学校附属中学校

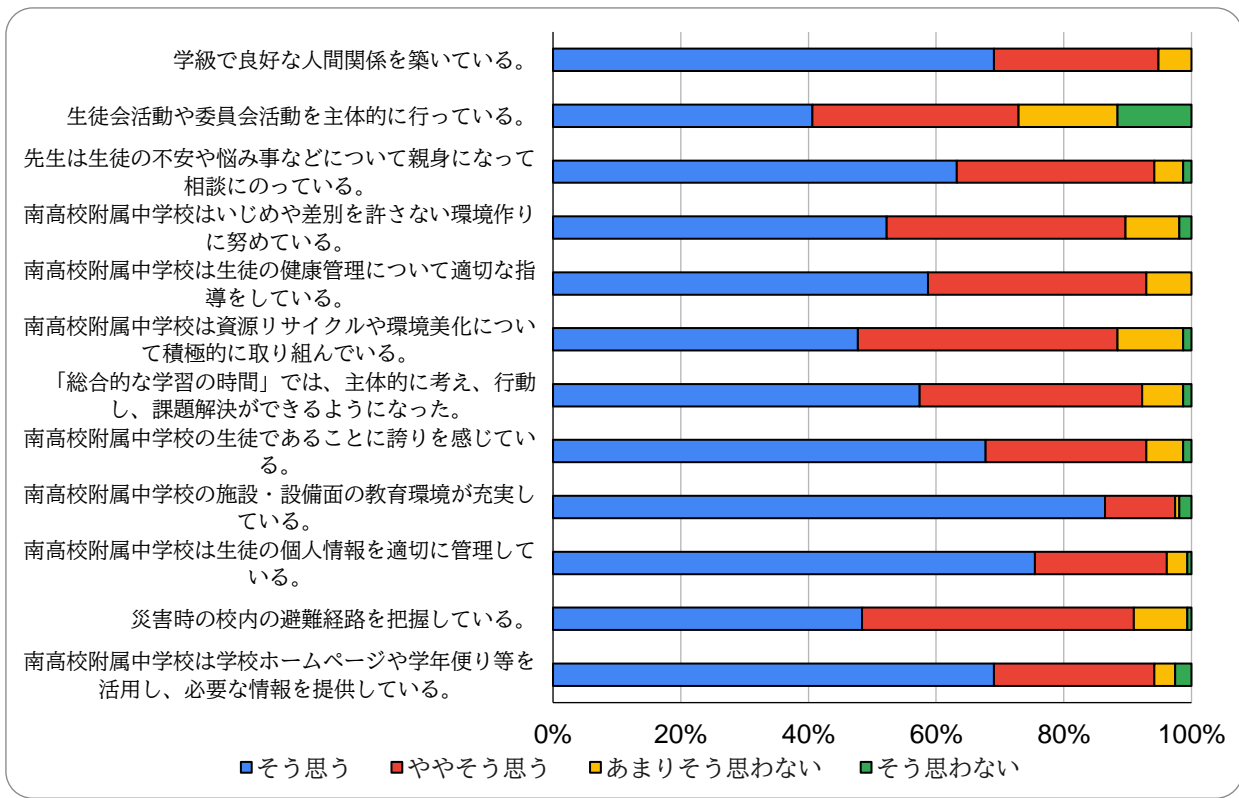
令和4年度 生徒による学校評価 1年 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
教育活動等について	1	学級で良好な人間関係を築いている。	69.9%	25.6%	3.9%	0.64%	95.5%
	2	生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。	46.2%	30.8%	14.1%	9.0%	76.9%
	3	先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。	68.0%	26.3%	4.5%	1.3%	94.2%
	4	南高校附属中学校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている。	56.4%	33.3%	9.6%	0.6%	89.7%
	5	南高校附属中学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。	67.3%	28.2%	3.2%	1.3%	95.5%
	6	南高校附属中学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。	61.5%	30.8%	7.1%	0.6%	92.3%
	7	「総合的な学習の時間」では、主体的に考え、行動し、課題解決ができるようになった。	64.7%	30.1%	3.9%	1.3%	94.9%
学校生活などについて	8	南高校附属中学校の生徒であることに誇りを感じている。	77.6%	16.7%	5.1%	0.6%	94.2%
	9	南高校附属中学校の施設・設備面の教育環境が充実している。	92.3%	6.4%	0.0%	1.3%	98.7%
	10	南高校附属中学校は生徒の個人情報を適切に管理している。	86.5%	11.5%	1.3%	0.6%	98.1%
	11	災害時の校内の避難経路を把握している。	34.0%	32.1%	18.6%	15.4%	66.0%
	12	南高校附属中学校は学校ホームページや学年便り等を活用し、必要な情報を提供している。	65.4%	25.6%	6.4%	2.6%	91.0%



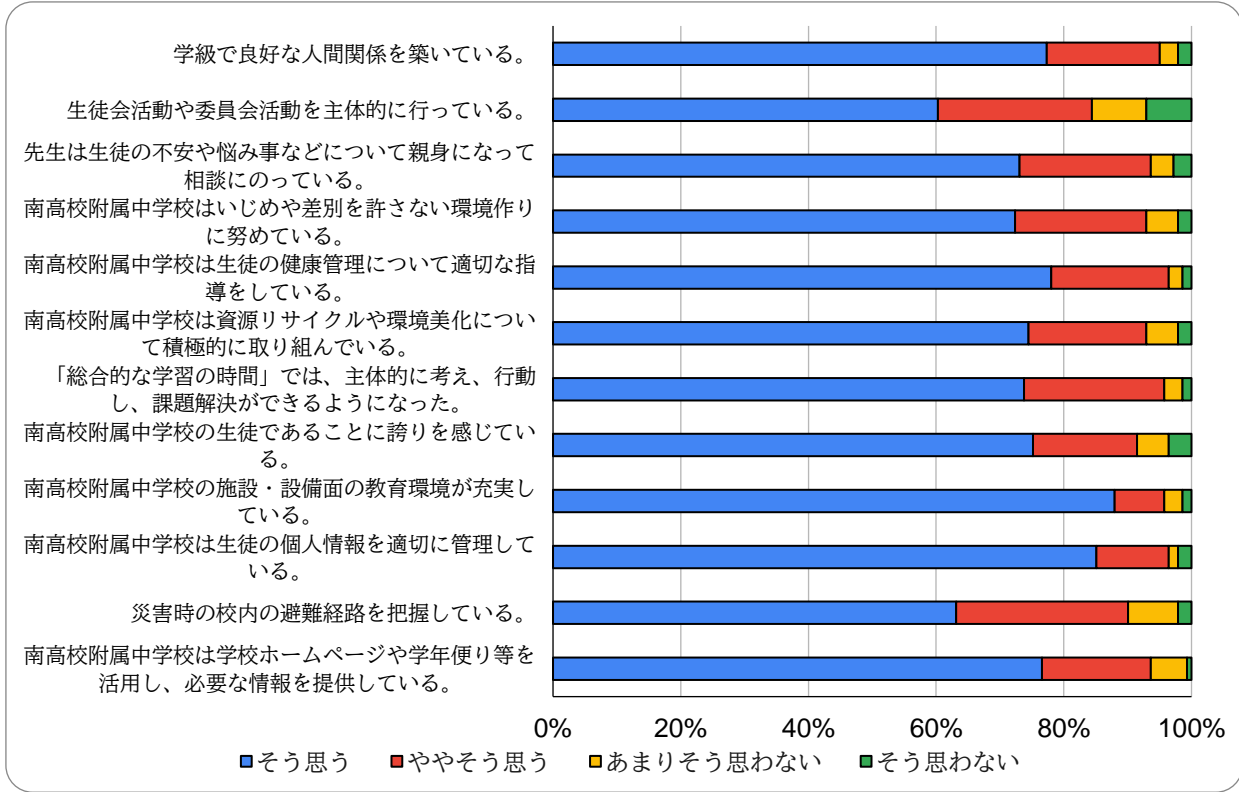
令和4年度 生徒による学校評価 2年 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
教育活動等について	1	学級で良好な人間関係を築いている。	69.0%	25.8%	5.2%	0.00%	94.8%
	2	生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。	40.6%	32.3%	15.5%	11.6%	72.9%
	3	先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。	63.2%	31.0%	4.5%	1.3%	94.2%
	4	南高校附属中学校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている。	52.3%	37.4%	8.4%	1.9%	89.7%
	5	南高校附属中学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。	58.7%	34.2%	7.1%	0.0%	92.9%
	6	南高校附属中学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。	47.7%	40.6%	10.3%	1.3%	88.4%
	7	「総合的な学習の時間」では、主体的に考え、行動し、課題解決ができるようになった。	57.4%	34.8%	6.5%	1.3%	92.3%
学校生活などについて	8	南高校附属中学校の生徒であることに誇りを感じている。	67.7%	25.2%	5.8%	1.3%	92.9%
	9	南高校附属中学校の施設・設備面の教育環境が充実している。	86.5%	11.0%	0.6%	1.9%	97.4%
	10	南高校附属中学校は生徒の個人情報を適切に管理している。	75.5%	20.6%	3.2%	0.6%	96.1%
	11	災害時の校内の避難経路を把握している。	48.4%	42.6%	8.4%	0.6%	91.0%
	12	南高校附属中学校は学校ホームページや学年便り等を活用し、必要な情報を提供している。	69.0%	25.2%	3.2%	2.6%	94.2%



令和4年度 生徒による学校評価 3年 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
教育活動等について	1	学級で良好な人間関係を築いている。	77.3%	17.7%	2.8%	2.13%	95.0%
	2	生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。	60.3%	24.1%	8.5%	7.1%	84.4%
	3	先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。	73.0%	20.6%	3.5%	2.8%	93.6%
	4	南高校附属中学校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている。	72.3%	20.6%	5.0%	2.1%	92.9%
	5	南高校附属中学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。	78.0%	18.4%	2.1%	1.4%	96.5%
	6	南高校附属中学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。	74.5%	18.4%	5.0%	2.1%	92.9%
	7	「総合的な学習の時間」では、主体的に考え、行動し、課題解決ができるようになった。	73.8%	22.0%	2.8%	1.4%	95.7%
学校生活などについて	8	南高校附属中学校の生徒であることに誇りを感じている。	75.2%	16.3%	5.0%	3.5%	91.5%
	9	南高校附属中学校の施設・設備面の教育環境が充実している。	87.9%	7.8%	2.8%	1.4%	95.7%
	10	南高校附属中学校は生徒の個人情報を適切に管理している。	85.1%	11.3%	1.4%	2.1%	96.5%
	11	災害時の校内の避難経路を把握している。	63.1%	27.0%	7.8%	2.1%	90.1%
	12	南高校附属中学校は学校ホームページや学年便り等を活用し、必要な情報を提供している。	76.6%	17.0%	5.7%	0.7%	93.6%



保護者による学校評価 1年 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	そう思う・ややそう思う
教育活動等について	1	中高一貫教育校として特色ある教育活動など、適切な取り組みをしている。	50.0%	38.2%	6.9%	3.2%	1.7%	88.2%
	2	南高校・南附属中学校の教育課程は充実したものである。	51.7%	39.9%	4.6%	1.4%	2.3%	91.7%
	3	おさんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。	61.2%	31.9%	3.2%	1.4%	2.3%	93.1%
	4	学校行事や生徒会活動は充実し、おさんは積極的に参加している。	46.0%	42.5%	7.8%	2.3%	1.4%	88.5%
	5	生活習慣や規範意識を身につけさせるための適切な指導が行われている。	41.4%	46.0%	7.8%	1.7%	3.2%	87.4%
学校生活等について	6	生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。	37.1%	47.1%	8.6%	1.4%	5.7%	84.2%
	7	校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。	50.9%	38.5%	2.9%	0.6%	7.2%	89.4%
	8	各種会計報告が適切に行われている。	64.4%	26.1%	2.6%	0.6%	6.3%	90.5%
	9	学校の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。	44.8%	40.5%	11.2%	2.0%	1.4%	85.3%

保護者による学校評価 2年 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	そう思う・ややそう思う
教育活動等について	1	中高一貫教育校として特色ある教育活動など、適切な取り組みをしている。	51.3%	41.9%	4.3%	2.6%	0.0%	93.2%
	2	南高校・南附属中学校の教育課程は充実したものである。	57.3%	36.8%	5.1%	0.9%	0.0%	94.0%
	3	おさんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。	62.4%	29.1%	2.6%	0.9%	5.1%	91.5%
	4	学校行事や生徒会活動は充実し、おさんは積極的に参加している。	47.9%	40.2%	7.7%	2.6%	1.7%	88.0%
	5	生活習慣や規範意識を身につけさせるための適切な指導が行われている。	40.2%	48.7%	6.8%	0.0%	4.3%	88.9%
学校生活等について	6	生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。	38.5%	50.4%	6.0%	0.9%	4.3%	88.9%
	7	校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。	50.4%	41.0%	1.7%	0.0%	6.8%	91.5%
	8	各種会計報告が適切に行われている。	68.4%	23.9%	1.7%	0.0%	6.0%	92.3%
	9	学校の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。	41.0%	44.4%	12.0%	1.7%	0.9%	85.5%

保護者による学校評価 3年 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	そう思う・ややそう思う
教育活動等について	1	中高一貫教育校として特色ある教育活動など、適切な取り組みをしている。	39.3%	38.3%	13.1%	6.5%	2.8%	77.6%
	2	南高校・南附属中学校の教育課程は充実したものにしている。	39.3%	47.7%	7.5%	3.7%	1.9%	86.9%
	3	おさんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。	58.9%	31.8%	5.6%	2.8%	0.9%	90.7%
	4	学校行事や生徒会活動は充実し、おさんは積極的に参加している。	37.4%	43.9%	13.1%	4.7%	0.9%	81.3%
	5	生活習慣や規範意識を身につけさせるための適切な指導が行われている。	39.3%	45.8%	8.4%	4.7%	1.9%	85.0%
学校生活等について	6	生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。	38.3%	39.3%	12.1%	2.8%	7.5%	77.6%
	7	校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。	49.5%	40.2%	2.8%	1.9%	5.6%	89.7%
	8	各種会計報告が適切に行われている。	69.2%	21.5%	4.7%	1.9%	2.8%	90.7%
	9	学校の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。	44.9%	32.7%	16.8%	3.7%	1.9%	77.6%

No	大分類	評価項目	観点	評価指標	十分に実現できている	おおむね実現できている	あまり実現できていない	全く実現できていない	判断できない	十分に/おおむね実現できている	令和3年度
1	教育活動	第3期横浜市教育振興基本計画		魅力ある学校づくり に向けて学校全体として取り組んでいる。	1	16	4	0	0	81.0%	100.0%
2		教育課程	編成	学校教育目標・学校経営目標を踏まえて編成されている。	2	18	1	0	0	95.2%	100.0%
3			取組	学習指導要領の趣旨及び横浜市の方針に基づき、さらに中期学校経営方針に掲げた目標の実現を目指して編成し、取り組んでいる。	2	18	1	0	0	95.2%	100.0%
4		教科指導	指導計画	学校教育目標・重点目標の実現に向け適切な計画を作成している。	2	18	1	0	0	95.2%	100.0%
5			取組	私の所属している教科は生徒の実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫してわかりやすい授業を行っている。	4	16	0	0	1	95.2%	91.7%
6			評価評定	観点別評価規準を明確にした年間計画を立て、それに基づき適切な方法で評価・評定を行っている。	4	15	2	0	0	90.5%	87.5%
7		特別活動 部活動	取組	生徒の主体的、自立的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している。	2	16	3	0	0	85.7%	87.5%
8		学級活動	生徒が人間関係を円滑に結び、充実した学校生活を送ることができるよう基礎的な生活集団の形成に資する学級経営を行うことができている。	3	18	0	0	0	0	100.0%	95.8%
9		生徒指導	生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて、適切な指導を行っている。	2	16	3	0	0	0	85.7%	91.7%
10		保健指導	学校保健計画に沿って生徒の健康管理を適切に行い、また生徒の健康に対する意識を喚起している。	6	15	0	0	0	0	100.0%	0.0%
11		環境美化	資源リサイクル等省エネ行動に学校として適切に取り組んでいる。	3	9	4	3	2	57.1%	91.7%	
12		学校教育目標	学校教育目標の実現に向け、全教職員が取り組んでいる。	2	17	1	0	1	90.5%	87.5%	
13	学校経営	学校経営方針		学校経営方針に基づき、教職員が協力して円滑な学校経営がなされている。	1	18	2	0	0	90.5%	95.8%
14		職員組織 (校務分掌も含む)		一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織である。	2	16	2	0	1	85.7%	95.8%
15		学年経営		各学年(年次)の運営は、情報が共有され組織的取組が円滑に行なわれている。	4	17	0	0	0	100.0%	83.3%
16		職員会議等		会議は効率的に運営されており、教育活動や学校運営の計画等の共通理解が図られる場となっている。	1	13	7	0	0	66.7%	95.8%
17		研究・研修		教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている。	2	11	8	0	0	61.9%	75.0%
18		学校経理	予算編成	予算委員会などの組織を設けて、予算が適切に立てられている。	5	15	0	0	1	95.2%	83.3%
19			会計報告	公金、準公金ともに透明性が確保され、保護者や市民に対する説明責任を果たしている。	6	13	0	0	2	90.5%	91.7%
20		学校施設 設備		教室、特別教室、体育施設等は学習や生活がしやすいように管理が適切になされている。	3	15	3	0	0	85.7%	87.5%
21		情報管理		個人情報の管理が適切である。	4	16	0	0	1	95.2%	91.7%
22		保護者・地域 等との連携協 力	PTA活動	PTAとの連携・協力の推進が図られている。	2	14	4	0	1	76.2%	95.8%
23			地域等との連 携 協力	学校の教育活動の情報提供・説明が十分になされ、活動に対する理解が得られている。	2	15	4	0	0	81.0%	70.8%
24		危機管理	安全対策	学校安全計画に沿って適正に実施されている。	2	15	4	0	0	81.0%	91.7%
25	防災対策		学校防災計画に沿って、緊急避難場所や避難経路・避難方法等の周知徹底がなされている。	2	15	4	0	0	81.0%	91.7%	
26	情報公開		募集に関する学校説明会や学校情報に関する広報活動が適切に行われている。	6	15	0	0	0	100.0%	87.5%	
27	いじめに 関する項 目	いじめへの対応	いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止や早期発見、早期解決に組織的に取り組んでいる。	6	15	0	0	0	100.0%	100.0%	

令和4年度 生徒授業評価
【中1国語】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	37.6%	43.9%	14.6%	3.8%	81.5%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	58.6%	33.8%	5.7%	1.9%	92.4%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	56.1%	38.2%	5.1%	0.6%	94.3%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	68.8%	24.2%	5.1%	1.9%	93.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	86.0%	9.6%	2.5%	1.9%	95.5%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	86.0%	10.2%	1.3%	2.5%	96.2%
	7	発問や説明は適切である。	83.4%	12.1%	1.9%	2.5%	95.5%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	84.7%	10.8%	1.9%	2.5%	95.5%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	75.8%	16.6%	4.5%	3.2%	92.4%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	83.4%	13.4%	1.3%	1.9%	96.8%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①生徒が主体的に国語学習に取り組めるよう、言語活動を取り入れ、「思考力、判断力、表現力」を育てる授業実践を行った。
- ②単元のはじめに学びのプランを提示し、その単元で身につける資質・能力を、生徒と共有して授業を行った。
- ③漢字や言語に関する基礎的な知識が定着するよう、ほぼ毎授業小テストを実施した。
- ④全学年で「読書マラソン」（読書頑張りカード）を行い、楽しみながら読書に親しめるよう指導をした。
- ⑤全学年で新聞社説の視写を家庭学習の課題とし、読解力・表現力育成の一助とした。

(b) 成果

- ①さまざまな言語活動を取り入れた授業を通して生徒が主体的に国語学習に取り組み、思考力、判断力、表現力向上させることができた。
- ②単元のはじめに、身に付けたい資質・能力を明確にすることで、生徒と教師がねらいを共有し、効果的に学習を進めることができた。
- ③小テストの継続的な実施によって、漢字や語句の知識が身につけていった。
- ④「読書マラソン」（読書頑張りカード）の継続によって、読書の楽しみに気づき、読書に親しむことができた。
- ⑤新聞社説の視写を継続的に行うことによって、読解力・表現力育成の一助とすることができた。

(c) 課題

- ①授業評価については、おおむね満足できる状況である。
- ②項目1の予習復習に関して、他の項目よりやや数値が低いことが課題である。
- ③言語活動では、常に生徒の学習意欲を引き出すための「問いづくり」を工夫することが課題と言える。

(d) 改善策

- ①項目1の予習・復習については、家庭学習によって、授業で学習したことが定着することを生徒自身が自覚するよう指導していく。
- ②家庭学習の内容を限定的に考えず、新聞の社説の視写や読書の継続が、総合的な国語力の向上に有効であることを理解して取り組むことの重要性を生徒に伝えていく。
- ③生徒の主体的な学びに繋がるよう、興味・関心をもって学習に取り組めるような「問いづくり」を、常に工夫していく。

令和4年度 生徒授業評価
【中1社会】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	59.2%	33.1%	5.7%	1.9%	92.4%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	73.2%	19.7%	5.7%	1.3%	93.0%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	64.3%	29.9%	4.5%	1.3%	94.3%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	88.5%	8.9%	1.3%	1.3%	97.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	93.0%	5.1%	0.6%	1.3%	98.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	91.7%	7.0%	0.0%	1.3%	98.7%
	7	発問や説明は適切である。	90.4%	7.0%	1.3%	1.3%	97.5%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	92.4%	6.4%	0.0%	1.3%	98.7%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	87.9%	9.6%	1.3%	1.3%	97.5%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	89.8%	8.9%	0.0%	1.3%	98.7%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①授業内容や身に付けて欲しい資質・能力などを書いた「単元計画」を毎回の単元初めに生徒に配布し、作成し、見通しをもって学習できるようにした。</p> <p>②単元ごとに教科書の内容で一問一答形式で取り組む「予習プリント」を作成し、単元終わりに小テストを実施した。</p> <p>③多面的・多角的な思考力をつける学習を目指し、各単元で個人学習、ペアワーク、全体学習を多く取り入れた。</p> <p>④毎回の授業プリントをお互いに読みあい、コメントを記入する活動を実施した。</p> <p>(b) 成果</p> <p>①見通しをもって取り組み、単元の課題を意識して学習することができた。毎時間の授業で、何を身につけるための授業なのか明確になり、意欲的に授業に取り組む生徒が増え、文章をまとめる力が身につけてきた。思考の整理を行うことによって、自分が考えていることを表現する力が身につけてきた。</p> <p>②事前に教科書を読むことにより、授業での理解が深まった。項目1の数値が高い数値を示している。</p> <p>③④他者の考えを聞くことにより、思考が深まったり、新しい気づきがあったりした。</p> <p>(c) 課題</p> <p>①単元のまとめについて、質問の意図が伝わりづらい部分があった。</p> <p>②予習プリントの定着度合いが、生徒によってばらつきがでてしまった。</p> <p>③個人学習、ペアワーク、全体学習を行う際の個々に応じた指導が必要だと感じる。また学習が苦手な生徒に対してのフォローをしっかりと実施していくべきだと感じる。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>①単元の課題について、発問の意図を丁寧に説明をする。キーワードを提示してそのキーワードを参考に課題についてまとめるように指導する。</p> <p>②再度「予習プリント」の意義と復習の仕方について生徒に説明をする。また予習プリントをすることによって答えられる発問を増やしていく。</p> <p>③個々にあった指導を行うためにも、より多くの机間指導で、細かい助言をしていく。</p>
--

令和4年度 生徒授業評価
【中1数学】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	54.5%	35.3%	9.6%	0.6%	89.7%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	80.8%	17.9%	0.6%	0.6%	98.7%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	68.6%	26.3%	3.8%	1.3%	94.9%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	78.8%	17.3%	3.2%	0.6%	96.2%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	91.0%	6.4%	1.9%	0.6%	97.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	92.9%	5.8%	0.0%	1.3%	98.7%
	7	発問や説明は適切である。	92.9%	4.5%	1.9%	0.6%	97.4%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	91.7%	7.1%	0.0%	1.3%	98.7%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	89.1%	8.3%	1.3%	1.3%	97.4%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	88.5%	9.6%	1.3%	0.6%	98.1%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み
 ①体系数学を教材とし、発展的な内容を扱った授業を行う。
 ②完成ノートのチェックシートを配布し、日々チェックを行う。また、計画的に学習を進めるように指導する。
 ③定期テスト、基礎力診断テストの振り返りを毎回、その方法も含めて指導し、必要に応じて指導を行う。
 ④基礎力診断テストの得点が8割に満たない生徒に対して、補習、課題と再試験を実施する。
 ⑤授業の冒頭で2,3分、単元ごとの小テストを実施する。
 ⑥単元、節ごとに学びの足跡を記入させ、生徒の理解度や疑問を把握するよう努めている。
 ⑦授業内での「問い」の設定を大切にし、生徒の「なぜ？」をもたせるように授業を展開した。
 ⑧生徒どうしの対話の中で問題を解決し、理解できるように声掛けを行った。

(b) 成果
 ①生徒の理解度を見ながら進めたため、大半の生徒は内容を理解できている。
 ②日々生徒の完成ノートの進捗状況を確認することができ、学力の向上につながった。
 ③個別に対応できるため、生徒の理解度や意欲の向上につながっている。また、次のテストに向けての取り組み方を考える良い機会になっている。
 ④⑤基礎的な力の定着につながった。
 ⑥思考の整理をし、言語活動の充実に繋がった。
 ⑦⑧主体的、積極的に授業に参加している生徒が98%と、高い数値をマークした。

(c) 課題
 ・質問1であまりそう思わない・そう思わないが10%を占めていることから、家庭学習習慣があまり定着していないことがわかる。
 ・第2,3回基礎力診断テストにおいて8割未満の生徒が多数いることから、正確な計算力に課題を抱える生徒がみられること。

(d) 改善策
 ・授業の時間内で生徒の様子をしっかりと観察し、理解が遅い場合に適切な支援を行う。
 ・家庭学習において、完成ノートの取り組み方を具体的に示し、こまめな声かけと提出を行い、進捗状況と理解度の共有を行う。
 ・生徒の主体的な学びに繋がるよう、興味・関心をもって学習に取り組めるような「問いづくり」を、常に工夫していく。

令和4年度 生徒授業評価
【中1理科】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	45.7%	33.8%	17.2%	3.3%	79.5%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	68.9%	24.5%	5.3%	1.3%	93.4%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	75.5%	19.9%	4.6%	0.0%	95.4%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	78.1%	17.2%	2.6%	2.0%	95.4%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	88.1%	9.3%	2.0%	0.7%	97.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	91.4%	6.0%	1.3%	1.3%	97.4%
	7	発問や説明は適切である。	88.7%	7.9%	2.0%	1.3%	96.7%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	90.1%	6.6%	2.0%	1.3%	96.7%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	89.4%	6.0%	3.3%	1.3%	95.4%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	90.7%	7.3%	0.0%	2.0%	98.0%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容と日常生活の関わりを考えたり、学んだことをさらに詳しく調べたりする課題(家庭学習シート)を設けた。 ・実験や観察を重視した授業を行った。また、教室の授業では「生徒のなぜを大切にする発問(生徒同士の対話活動も含む)」、「関心をもつためや理解を深めるための写真・図・動画の利用」、「効果的な教材の利用(パワーポイントの積極的な活用)」を重視した。 <p>(b) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習シートの取り組み」については、提出回数を重ねるにつれて「質の高い取り組みをする生徒の割合」が高くなっていき、理科への興味・関心を高めていくことができた。 ・項目8について、90%以上の生徒から「そう思う」の回答を得ることができた。そのため、引き続き(a)で述べたような「写真・図・動画の利用」、「パワーポイントの利用」、「プリントの利用」などを効果的に行っていく。また、実験や観察を重視する点についても引き続き継続していく。 <p>(c) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目1については、「あまりそう思わない」、「そう思わない」と解答している生徒が一定数いる。特に「復習」の部分の取り組む姿勢を高めていく必要がある。 <p>(d) 改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅学習のための「家庭学習シート」の取り組みを習慣化していくように積極的に声をかける。意欲が低い生徒の意欲を高めていくことが課題であるため、積極的な声かけをしていく。また、「家庭学習シートに取り組む意義」を丁寧に伝えていき、生徒の意識をさらに高くしていく。

令和4年度 生徒授業評価
【中1音楽】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	31.2%	39.6%	17.5%	11.7%	70.8%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	66.2%	28.6%	4.5%	0.6%	94.8%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	65.6%	27.9%	5.8%	0.6%	93.5%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	74.0%	18.8%	4.5%	2.6%	92.9%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	91.6%	6.5%	1.9%	0.0%	98.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	90.9%	7.8%	1.3%	0.0%	98.7%
	7	発問や説明は適切である。	93.5%	4.5%	1.3%	0.6%	98.1%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	87.7%	9.7%	0.6%	1.9%	97.4%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	88.3%	9.1%	1.3%	1.3%	97.4%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	88.3%	8.4%	1.9%	1.3%	96.8%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

1. 歌唱、合唱については、コロナ禍の教育制限の中、理論的なものを中心に行った。
2. 生徒の音楽理論曲の統一した定着をはかった。(例 音符、休符の長さなど)
3. 楽しく、よりよい表現をするため曲のアナリゼを重点的に行った。

(b) 成果

1. コロナ禍における教育制限の中であったが、曲に対する理解は深めることが出来た。
2. 基礎を大切に、応用についての理解が深まり、探求する姿も見られた。
3. より深い表現をするのに役立った。

(c) 課題

1. 教育制限の緩和を受けた表現力の助長に力をいれてゆく。
2. もう少し丁寧な説明が必要である。
3. もう少しわかりやすい説明が必要である。

(d) 改善策

1. 表現分野について、鑑賞教育とリンクさせた指導を行う。
2. ていねいに説明していく。
3. 資料作成にあたりさらに工夫をする。

令和4年度 生徒授業評価
【中1美術】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	44.8%	25.3%	16.9%	13.0%	70.1%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	78.6%	18.2%	1.9%	1.3%	96.8%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	68.2%	20.1%	9.7%	1.9%	88.3%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	73.4%	18.2%	5.2%	3.2%	91.6%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	80.5%	15.6%	1.9%	1.9%	96.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	89.6%	7.1%	1.9%	1.3%	96.8%
	7	発問や説明は適切である。	85.7%	9.7%	2.6%	1.9%	95.5%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	83.8%	11.7%	3.2%	1.3%	95.5%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	79.9%	12.3%	5.8%	1.9%	92.2%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	90.3%	5.2%	3.2%	1.3%	95.5%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

表現の基礎を理解させるように進めていった。

(b) 成果

一人一人に表現の仕方に差はあるが、対象のとらえ方は上手に出来るようになった。

(c) 課題

個人の技能の差があり、それが意欲の差にもなっている。

(d) 改善策

個別に丁寧にアドバイスをしていく。

令和4年度 生徒授業評価
【中1体育】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	44.2%	40.3%	7.1%	8.4%	84.4%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	78.6%	16.2%	4.5%	0.6%	94.8%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	72.1%	19.5%	6.5%	1.9%	91.6%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	89.6%	5.8%	2.6%	1.9%	95.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	90.9%	7.8%	0.6%	0.6%	98.7%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	93.5%	5.8%	0.6%	0.0%	99.4%
	7	発問や説明は適切である。	93.5%	5.2%	1.3%	0.0%	98.7%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	87.0%	9.7%	0.6%	2.6%	96.8%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	83.8%	12.3%	1.9%	1.9%	96.1%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	80.5%	11.7%	5.2%	2.6%	92.2%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①オリエンテーションで保健体育科の授業の学び方、挨拶、整列、準備運動といった基本の授業規律を徹底し、集団での行動がスムーズにできるように指導した。</p> <p>②感染症対策として始めたことだが、より細かい指導が行き渡るよう授業集団を通常の3分の1の人数に分け、授業を実施した。</p> <p>(b) 成果</p> <p>①授業評価では、どの項目もおおむね高い評価を受けた。授業開始前に道具を準備したり整列指示を出す様子も見られ主体的に取り組もうとする生徒が増えてきたことがうかがえる。</p> <p>②生徒一人ひとりへの声掛けの機会が増え、個に応じた指導を充実させることができた。</p> <p>(c) 課題</p> <p>①主体的に取り組める生徒が増えてきた反面、準備や片付けに消極的であったり、忘れ物をしてしまったりする生徒がいる。</p> <p>②運動への苦手意識が、そのまま授業への取り組みに影響し、消極的になる生徒がいた。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>①運動を行う上での規律は、安全面やお互いの信頼関係を築くために直結する大切な問題であることを継続的に訴えていく。</p> <p>②運動が苦手な生徒、コミュニケーションに課題のある生徒がいることを常に意識して、どの单元でもチームやペアで協力して活動する場を大切にしていく。</p>
--

令和4年度 生徒授業評価
【中1技術】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	46.8%	30.5%	14.3%	8.4%	77.3%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	68.8%	24.0%	6.5%	0.6%	92.9%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	57.8%	20.8%	18.2%	3.2%	78.6%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	85.1%	11.7%	2.6%	0.6%	96.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	85.1%	11.7%	1.9%	1.3%	96.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	91.6%	6.5%	0.6%	1.3%	98.1%
	7	発問や説明は適切である。	89.0%	8.4%	1.9%	0.6%	97.4%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	88.3%	7.8%	3.2%	0.6%	96.1%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	82.5%	13.0%	3.9%	0.6%	95.5%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	92.9%	7.1%	0.0%	0.0%	100.0%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①Chromebookを毎回の学習に活用し、基礎的なコンピュータリテラシーの育成。</p> <p>②実際にプログラミングの課題に取り組む事により、小学校で取り組んできている「プログラミング的思考」の復習・実践・発展に取り組んでいる。</p> <p>(b) 成果</p> <p>①Classroom・SpreadSheet・Documentといった基本的なソフトの使い方に慣れ親しんだ。</p> <p>②生徒自身が自分でプログラムを組み、動作を確認してデバッグを行うことができた。</p> <p>(c) 課題</p> <p>①より発展的で今後の学習にも有用な機能を教えていきたい。</p> <p>②小学校での学習にばらつきがあり、生徒によつての習熟度の差が大きくなった。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>①この中学校の1年生の発達段階に合わせた課題を設定し、多くの機能を使いこなせるようにしていきたい。</p> <p>②もう少し細かいステップで課題を設定し、初めてプログラミングに取り組む生徒とプログラミングに慣れている生徒の両方が意欲的に課題に取り組めるようにしたい。</p>

令和4年度 生徒授業評価
【中1家庭科】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	57.8%	28.6%	7.8%	5.8%	86.4%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	85.7%	11.0%	3.2%	0.0%	96.8%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	77.3%	18.8%	3.9%	0.0%	96.1%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	94.2%	3.9%	0.6%	1.3%	98.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	94.8%	3.9%	1.3%	0.0%	98.7%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	93.5%	4.5%	1.3%	0.6%	98.1%
	7	発問や説明は適切である。	94.2%	4.5%	1.3%	0.0%	98.7%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	90.3%	8.4%	1.3%	0.0%	98.7%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	94.2%	5.2%	0.6%	0.0%	99.4%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	94.2%	5.2%	0.0%	0.6%	99.4%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- 新型コロナの流行状況に応じて、授業計画を変更しながら、授業を進めた。
- 生活に必要な衣・食・住と幅広い内容を日常生活に結びつけ、実習と組み合わせて、考える授業を展開した。

(b) 成果

- 臨機応変に授業計画を変更したことにより、各分野の実習士官を確保することができた。
- 生活技術がしっかりと身につけているといえる生徒は多くないが、日常生活と結び付けて授業展開をしたことで、授業に対する興味関心は全体的に高く、実生活を改善しようとしている生徒の姿も見られるようになった。

(c) 課題

- 授業時間数が少なく、生活技術を定着させるためには、繰り返しの練習が必要であるが、その時間を十分に確保することができない。
- 例年のことではあるが、10月に技術から家庭科の授業に変わり、授業回数が数回の時期に授業評価を行うのは厳しいと感じる。

(d) 改善策

- 生活技術の習得については、学校の授業で行うだけでは不十分である。かていで自発的に練習の機会を作ってもらえるような授業内容や技術の習得意欲が高まる授業内容を考えていきたい。

令和4年度 生徒授業評価
【中1英語】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	59.7%	31.5%	5.4%	3.4%	91.3%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	75.2%	19.5%	4.0%	1.3%	94.6%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	73.8%	18.8%	4.0%	3.4%	92.6%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	90.6%	5.4%	1.3%	2.7%	96.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	95.3%	2.0%	0.0%	2.7%	97.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	92.6%	5.4%	0.0%	2.0%	98.0%
	7	発問や説明は適切である。	93.3%	3.4%	0.7%	2.7%	96.6%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	94.0%	4.0%	1.3%	0.7%	98.0%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	86.6%	11.4%	0.0%	2.0%	98.0%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	94.0%	4.7%	0.7%	0.7%	98.7%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

本校の取り組みの特徴である5ラウンドシステムの中で授業を行っており、授業内ではペアやグループでの活動を通じて、実際に英語を使用する場面を多く設定した授業を行っている。授業内では同じ教科書の内容を異なるアプローチから5度扱うことによって、より深い理解と、教科書の表現をインプットすることによる生徒自身が英語で表現するための素地を築く一助となっている。

今年度は、教科書音読をペアで発表する活動をラウンド3の中間に実施し、英語のイントネーションや発音に関して、生徒自身が到達度を確認できるようにした。

(b) 成果

11年目の取り組みとなる5ラウンドシステムによって、英語を「聞く」・「読む」・「話す」・「書く」技能の効率的な習得につながっている。ペア活動では生徒が失敗を恐れずに積極的に英語を用いてコミュニケーションをとる姿が見られ、日常生活において英語を使うための技能を身につけることができている。

教科書を使用する場面では、教科書の英文を繰り返し聴き、読むことで、教科書中の表現を覚えて、自分の言葉として会話で活用することができている。

(c) 課題

本校の英語の授業では原則として英語が使用され、教師から内容についての詳細な解説を行う機会が多くないため、教科書の内容を完全に理解できたかどうか不安な生徒が多くなるのが課題として挙げられる。その為、質問項目3の「授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。」が他項目と比較して低い数値となっているのではないかと考えられる。

(d) 改善策

本校の5ラウンドシステムでは、英語を実際に使用する場面を増やし、生徒が自信をもって英語を話したり、書くことができるようになることを目的としている。そのために必要な英語で書かれたもの、話されたものの理解のために必要な支援を授業内外で実施する。

令和4年度 生徒授業評価
【中2国語】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	27.6%	44.2%	21.2%	7.1%	71.8%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	53.8%	34.0%	10.9%	1.3%	87.8%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	63.5%	30.8%	4.5%	1.3%	94.2%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	68.6%	23.7%	6.4%	1.3%	92.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	77.6%	19.2%	2.6%	0.6%	96.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	76.9%	18.6%	3.8%	0.6%	95.5%
	7	発問や説明は適切である。	73.7%	22.4%	3.2%	0.6%	96.2%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	72.4%	23.7%	3.2%	0.6%	96.2%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	71.8%	21.8%	3.8%	2.6%	93.6%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	79.5%	15.4%	3.8%	1.3%	94.9%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>① 单元ごとに学びのプランを作成し、その单元で身に付けたい資質・能力を生徒と共有することで、観点を明確にした。(項目1、2、3、4、6、7)</p> <p>② 单元ごとに振り返りを行い、学んだことを指導者が把握し、次の单元の指導に生かせるようにした。(項目2、3、4、6、8)</p> <p>③ 生徒が主体的に国語学習に取り組めるよう言語活動を取り入れた授業を行った。(項目2、3、5、6、8)</p> <p>④ 国語の基礎的な知識が定着するよう漢字の小テストを計画的に行い、解き直しを家庭学習の課題とした。また、基礎力診断テストでは基準点に達するまで再テストや解き直しなどの課題を出した。(項目1、3、5、10)</p> <p>⑤ 全学年で「読書マラソン」を行い、楽しみながら読書に親しめるよう指導した。(項目1、2、10)</p> <p>⑥ 全学年で新聞の社説の視写を家庭学習の課題とし、読解力・表現力育成の一助とした。(項目1、2、10)</p> <p>(b) 成果</p> <p>① 学びのプランによって、その单元で身に付けたい資質・能力を生徒と共有し、意識して学習に取り組むことができた。</p> <p>② 振り返りによって、生徒と指導者がその单元で学んだことを確認し次の学習に生かすことができた。</p> <p>③ 言語活動を取り入れた授業を行うことで、生徒が興味・関心をもって主体的に課題に取り組むことができた。</p> <p>④ 漢字の小テストや基礎力診断テストを計画的に実施することを通して、国語の基礎的な知識を身に付けていくことができた。</p> <p>⑤ 「読書マラソン」の継続によって、読書に親しむことができるようになった。</p> <p>⑥ 新聞の社説の視写をすることで、計画的・継続的に家庭学習に取り組み、読解力・表現力育成の一助とすることができた。</p> <p>(c) 課題</p> <p>授業評価についてはおおむね達成できている状況である。</p> <p>① 項目1の予習・復習に関しては1年次よりは向上したとは言え、「あまりそう思わない」が14%いるので、家庭学習の意義や課題の明確化が必要である。</p> <p>② 生徒がより主体的・積極的に授業に取り組めるようにしていく。(項目2)</p> <p>(d) 改善策</p> <p>① 家庭学習の充実が学力向上に必要であることを生徒が自覚し、計画的に取り組めるよう指導を行っていく。</p> <p>② 生徒の主体的・積極的な学びのために、言語活動の充実や「問い」作りの工夫を続けていく。</p>

令和4年度 生徒授業評価
【中2社会】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	40.6%	36.8%	18.1%	4.5%	77.4%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	63.9%	31.0%	5.2%	0.0%	94.8%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	65.2%	27.1%	7.7%	0.0%	92.3%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	89.7%	7.1%	3.2%	0.0%	96.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	91.6%	6.5%	1.9%	0.0%	98.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	92.9%	7.1%	0.0%	0.0%	100.0%
	7	発問や説明は適切である。	94.8%	5.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	94.8%	3.9%	1.3%	0.0%	98.7%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	91.0%	7.7%	0.6%	0.6%	98.7%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	89.0%	9.0%	1.3%	0.6%	98.1%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①生徒が見通しをもって学習に取り組み、また単元ごとに振り返りをしっかり行うことができるよう、「学びのプラン」や「教科通信」を配付した。学習のねらいを明確にすると共に、学習状況の「見える化」に取り組んだ。
- ②例年以上に授業中の成果物に対する評価を細やかにを行い、個々の生徒の学習状況を把握すると共に、課題や苦手意識を抱えている生徒に対するケアを行いやすい環境づくりに努めた。
- ③学習内容により適した情報を取捨選択できるよう、Chromebookを活用し、様々な情報にアクセスしながら、学習を主体的に進めていけるよう、学習内容に工夫を凝らした。

(b) 成果

- ①質問項目の「6」で「100%」を得られたように、「学びのプラン」を配布したことで、「何を学習するのか?」を生徒がしっかりと意識し、日々の学習の質が高まったように思われる。
- ②授業中の成果物を定期的に回収し、生徒の状況を見ながら適宜コメントや声掛けを行ったことで、社会科に対して課題や苦手意識を抱いていた生徒の学習状況（定期試験等の結果）が改善された。
- ③様々な情報に触れながら学習を進めたことで、多様な視点から物事を考える力が育成された。

(c) 課題

- ①生徒たちが「学びのプラン」を書き続けることを形骸化させることなく、日々の学習の質を高めていけるよう、継続的に指導を行っていかなければならない。
- ②評価基準を明確に示し、生徒たちが安心して評価を受け止め、自身の成長に繋げられるよう、より公平性の高い評価基準を考える必要がある。
- ③情報にアクセスする力だけでなく、生徒たちが確かな知識を確実に習得できるよう、必要な支援を進めていく。

(d) 改善策

- ①「学びのプラン」を活用することで、自分自身がどのように学習を積み重ね、理解を深めてきたのか、長期的な視野に立ち、振り返る機会を設ける。
- ②どのような活動や課題を通して、どのような力を育み、どのような評価を行うのか、生徒たちと情報を共有する。
- ③定期的に知識に重点を置いた小テストを実施するなど、学習活動により工夫を凝らしていく。

令和4年度 生徒授業評価
【中2数学】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	50.6%	35.3%	10.9%	3.2%	85.9%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	69.9%	27.6%	1.9%	0.6%	97.4%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	66.0%	29.5%	3.8%	0.6%	95.5%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	81.4%	12.2%	3.8%	2.6%	93.6%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	92.9%	4.5%	1.9%	0.6%	97.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	89.7%	9.0%	1.3%	0.0%	98.7%
	7	発問や説明は適切である。	92.3%	6.4%	1.3%	0.0%	98.7%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	87.2%	11.5%	1.3%	0.0%	98.7%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	89.1%	8.3%	1.9%	0.6%	97.4%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	87.2%	7.7%	4.5%	0.6%	94.9%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①体系数学を教材とし、発展的な内容を扱った授業を行う。
- ②完成ノートのチェックシートを配布し、日々チェックを行う。また、計画的に学習を進めるように指導する。
- ③定期テスト、基礎力診断テストの振り返りを毎回、その方法も含めて指導し、評価する。
- ④基礎力診断テストの得点が8割に満たない生徒に対して、再試験を実施する。
- ⑤単元毎に学びの足跡を用い、生徒自身が何を学んだのか、現在地を把握できるようにする。
- ⑥授業内での「問い」の設定を大切にし、生徒の「なぜ？」をもたせるように授業を展開する。
- ⑦生徒どうしの対話の中で問題を解決し、理解できるように声掛けを行う。

(b) 成果

- ①生徒の理解度を見ながら進めたため、大半の生徒は内容を理解できている。
- ②こまめに提出を促し、日々生徒の完成ノートの進捗状況を確認することができた。
- ③個別に対応できるため、生徒の理解度や意欲の向上につながっている。また、次のテストに向けての取り組み方を考える良い機会になっている。
- ④基礎的な力の定着につながった。
- ⑤学びの足跡を使うことで生徒自身が単元の中で現在地を知り、学びを深めることができた。
- ⑥誰もが「なぜ？」をもてる「問い」の設定を行ったことで、数学の得意な生徒もそうでない生徒もともに議論し練り上げながら授業づくりができた。
- ⑦質問2で97.4%、質問3で95.5%を得られた。全体的に、「そう思う」の割合が1年生の頃よりも増えたことは成果として捉えられる。

(c) 課題

- ・質問1の割合が1年次に比べて下がってしまったこと。
- ・正確な計算力にやや課題を抱える生徒がみられること。
- ・授業の進度を都度確認していくこと。

(d) 改善策

- ・復習の仕方や内容に対する指導を重点的に行う。生徒の発見を大切にするため、予習ではなく復習に重点を置く。予習をしていないから評価を低くつけている生徒もいるかもしれないので、次年度は確認する。
- ・基礎的な計算練習を行わせることで、改善を図る。
- ・複数の教員で指導にあたっているため、できるだけ進度を揃える意識をもち声を掛け合っていくこと。

令和4年度 生徒授業評価
【中2理科】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	39.0%	42.2%	13.6%	5.2%	81.2%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	64.3%	31.8%	3.9%	0.0%	96.1%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	72.7%	24.7%	2.6%	0.0%	97.4%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	83.8%	14.9%	1.3%	0.0%	98.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	80.5%	16.2%	3.2%	0.0%	96.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	88.3%	11.0%	0.6%	0.0%	99.4%
	7	発問や説明は適切である。	90.3%	8.4%	1.3%	0.0%	98.7%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	85.7%	11.7%	1.9%	0.6%	97.4%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	89.0%	9.1%	1.9%	0.0%	98.1%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	91.6%	6.5%	1.3%	0.6%	98.1%

<授業評価を受けて>

- (a) 取り組み
- ・生徒が単元の見通しや目的意識をもち、主体的に学習に取り組むことができるよう、単元における1時間ごとの学習内容と評価計画を示した「学びのプラン」を作成し、配付した。
 - ・本物にふれる体験を重視し、観察や実験を中心とした授業を行った。
 - ・理科の目標である「科学的に探究する力の育成」を図るため、探究に必要な「基本的な知識や技能を習得する活動」と、習得した知識や技能を活用して「科学的に探究する活動」を計画的に単元に組み入れ、指導を行った。
 - ・ノートは板書を写すのではなく、各自が工夫してまとめるよう指導する機会を設けた。
- (b) 成果
- ・「学びのプラン」により、1時間ごとの授業のねらい（評価のポイント）や単元全体を通した授業のつながりが明確になり、生徒が見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができた。
 - ・観察や実験を通して自然の美しさや不思議にふれ、理科への興味関心を高めることができた。
 - ・科学的に探究する活動を通して、「問題を見いだす」「課題を解決する方法を立案する」「結果を分析して解釈し表現する」などの、科学的に探究する力を育成することができた。
 - ・図書を活用したりし、自分なりに考え、工夫してまとめる生徒が多くなり、思考力・表現力が向上した。
- (c) 課題
- ・観点別の学習評価が「B」（おおむね満足できる状況）に達していない生徒へのフォローが充分ではない点が課題として挙げられる。
- (d) 改善策 ①令和3年度に引き続き、以下の取り組みを重視する。
- ・毎時間の授業における評価規準（その授業で達成すべきゴール）を生徒と共有し、見通しと目標をもって毎時間の授業に取り組むことができるようにする。
 - ・小テストや技能テストを行い、基本的な知識や技能の習得を促す。
 - ・ノートにまとめたことを発表し合ったりし、学び合いの文化を醸成する。

令和4年度 生徒授業評価
【中2音楽】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	29.8%	35.8%	24.5%	9.9%	65.6%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	68.9%	27.2%	4.0%	0.0%	96.0%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	72.8%	22.5%	4.6%	0.0%	95.4%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	64.9%	23.2%	8.6%	3.3%	88.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	86.1%	12.6%	1.3%	0.0%	98.7%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	83.4%	15.9%	0.7%	0.0%	99.3%
	7	発問や説明は適切である。	84.1%	14.6%	1.3%	0.0%	98.7%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	79.5%	18.5%	2.0%	0.0%	98.0%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	82.8%	13.9%	3.3%	0.0%	96.7%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	84.8%	9.9%	4.0%	1.3%	94.7%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

1. 歌唱、合唱については、コロナ禍の教育制限の中、理論的なものを中心に行った。
2. 生徒の音楽理論曲の統一した定着をはかった。(例 音符、休符のながさなど)
3. 楽しく、よりよい表現をするため曲のアナリゼを重点的に行った。

(b) 成果

1. コロナ禍における教育制限の中であったが、曲に対する理解は深めることが出来た。
2. 基礎を大切に、応用についての理解が深まり、探求する姿もみられた。
3. より深い表現するのに役立った。

(c) 課題

1. 教育制限の緩和を受けた表現力の助長に力を入れてゆく。
2. もう少し丁寧な説明が必要である。
3. もう少しわかりやすい説明が必要である。

(d) 改善策

1. 表現分野について、鑑賞教育とリンクさせた指導を行う。
2. ていねいに説明していく。
3. 資料作成にあたりさらに工夫をする。

令和4年度 生徒授業評価
【中2美術】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	37.7%	28.5%	24.5%	9.3%	66.2%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	74.2%	23.8%	2.0%	0.0%	98.0%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	74.8%	22.5%	2.6%	0.0%	97.4%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	70.2%	20.5%	6.0%	3.3%	90.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	73.5%	23.2%	2.0%	1.3%	96.7%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	86.8%	11.9%	0.7%	0.7%	98.7%
	7	発問や説明は適切である。	84.8%	13.2%	2.0%	0.0%	98.0%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	84.8%	12.6%	2.6%	0.0%	97.4%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	83.4%	12.6%	2.6%	1.3%	96.0%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	84.1%	11.3%	3.3%	1.3%	95.4%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み
表現の基礎を理解させるように進めていった。

(b) 成果
一人一人に表現の仕方に差はあるが、対象のとらえ方は上手に出来るようになった。

(c) 課題
個人の技能の差があり、それが意欲の差にもなっている。

(d) 改善策
個別に丁寧にアドバイスをしていく。

令和4年度 生徒授業評価
【中2体育】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	49.7%	33.1%	13.9%	3.3%	82.8%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	73.5%	23.2%	2.6%	0.7%	96.7%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	71.5%	23.2%	5.3%	0.0%	94.7%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	92.7%	7.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	96.0%	3.3%	0.7%	0.0%	99.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	92.7%	6.6%	0.7%	0.0%	99.3%
	7	発問や説明は適切である。	88.7%	11.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	80.8%	15.2%	4.0%	0.0%	96.0%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	90.1%	7.9%	1.3%	0.7%	98.0%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	84.8%	10.6%	4.0%	0.7%	95.4%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①オリエンテーションで保健体育科の授業の学び方、挨拶、整列、準備運動といった基本の授業規律を徹底し、集団での行動がスムーズにできるように指導した。</p> <p>②感染症対策として始めたことだが、より細かい指導が行き渡るよう授業集団を通常の3分の1の人数に分ける事を今年度も実施した。</p> <p>(b) 成果</p> <p>①授業評価では、どの項目もおおむね高い評価を受け、昨年度より数値が上回った。失敗を恐れずチャレンジする生徒や仲間への励ましやアドバイスをする生徒が増え、集団として主体的に取り組もうとする様子がうかがえる。</p> <p>②生徒一人ひとりへの声掛けの機会が増え、個に応じた指導を充実させることができた。</p> <p>○新体力テストの結果が全国平均を握力以外上回ることができた。</p> <p>(c) 課題</p> <p>①運動への苦手意識が、そのまま授業への取り組みに影響し、消極的になる生徒がいた。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>①運動が苦手な生徒、コミュニケーションに課題のある生徒がいることを常に意識して、どの単元でもチームやペアで協力して活動する場を大切にしていく。</p> <p>②例年行っている「サーキットトレーニング」を授業の始めに取り入れ、個々の課題や目標にあった運動でさらなる体力の向上を目指す。</p>

令和4年度 生徒授業評価
【中2技術】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	42.4%	33.8%	19.2%	4.6%	76.2%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	70.9%	26.5%	2.6%	0.0%	97.4%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	66.9%	28.5%	4.6%	0.0%	95.4%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	83.4%	13.2%	2.6%	0.7%	96.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	88.7%	11.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	87.4%	11.9%	0.7%	0.0%	99.3%
	7	発問や説明は適切である。	91.4%	8.6%	0.0%	0.0%	100.0%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	82.8%	15.2%	2.0%	0.0%	98.0%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	84.8%	12.6%	2.6%	0.0%	97.4%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	85.4%	9.9%	4.0%	0.7%	95.4%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み ①多くの種子の種類を生徒自身で同定させたいと、自身が植物の育成計画を作成し植物の育成に取り組んだ。</p> <p>(b) 成果 ①多くの生徒が調べ学習を通して大部分の植物で正しい植物を特定したうえで、植物の育成に取り組めた。</p> <p>(c) 課題 ①自宅に持ち帰った課題であったため生徒の実習の進捗を確認し辛かった。</p> <p>(d) 改善策 ①中間レポートの提出を求めるなど進捗を確認できるようにし、困っている生徒の把握に努めたい。</p>
--

令和4年度 生徒授業評価
【中2家庭】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	49.0%	33.8%	13.2%	4.0%	82.8%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	74.8%	22.5%	2.6%	0.0%	97.4%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	70.2%	23.8%	6.0%	0.0%	94.0%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	85.4%	11.9%	1.3%	1.3%	97.4%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	91.4%	7.3%	1.3%	0.0%	98.7%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	92.7%	6.6%	0.7%	0.0%	99.3%
	7	発問や説明は適切である。	90.1%	9.3%	0.7%	0.0%	99.3%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	90.7%	7.9%	1.3%	0.0%	98.7%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	90.1%	7.9%	2.0%	0.0%	98.0%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	86.1%	9.3%	4.6%	0.0%	95.4%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

○新型コロナウイルス感染症予防のため、様々な制約はあったが、個人作業で取り組める環境を整え、可能な限り実習を実施し、生活技術の習得と技術の向上を目指す授業を実施した。

(b) 成果

○技術面だけでなく、日常生活に必要な知識の面においても生徒の実生活を振り返る機会をつくり、健康でより良い生活を送るための知識をもとに授業に対する興味関心は全体的に高くなっている。

(c) 課題

○授業には意欲的に取り組んではいたものの、生活技術を定着させるためには、繰り返し実施することが必要であり、授業だけではその時間を十分に確保することができない。今年度も時間的な部分などきびしいものがあつた。

(d) 改善策

○生活技術の習得については、学校の授業で行うだけでは不十分である。家庭で自発的に練習の機会を作ってもらえるような魅力的な授業内容や技術の習得意欲が高まる題材を工夫していきたい。

令和4年度 生徒授業評価
【中2英語】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	51.9%	35.7%	10.4%	1.9%	87.7%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	68.2%	29.2%	2.6%	0.0%	97.4%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	69.5%	23.4%	5.8%	1.3%	92.9%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	87.0%	11.0%	1.3%	0.6%	98.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	93.5%	4.5%	1.9%	0.0%	98.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	89.0%	9.1%	1.9%	0.0%	98.1%
	7	発問や説明は適切である。	90.3%	7.1%	1.3%	1.3%	97.4%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	87.7%	9.1%	3.2%	0.0%	96.8%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	93.5%	3.2%	1.9%	1.3%	96.8%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	93.5%	5.2%	0.6%	0.6%	98.7%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①令和4年度は、会話活動における話題深化と新出語彙・表現の導入を重点的に行った。また、音読活動では、活動目的を「身につけた教科書の英語表現を、英語集中研修やイングリッシュキャンプで使えるようになる」と具体的に示し、個人目標を設定しやすくした。
- ②パフォーマンステスト実施前に評価基準を紙面で配布し、適例・悪例を具体的に示した。

(b) 成果

- ①英語集中研修を通して自らの学習課題に気づき、2学期の音読活動に熱心に取り組む様子が多くの生徒で見受けられた。イングリッシュキャンプでは、ほとんどの生徒が教科書本文の表現を用いて場面にふさわしい発話をする事ができた。この経験を通して生徒が「自分の英語がネイティブスピーカーに伝わる」という自信を持つことができ、番号3の結果につながったと考える。
- ②生徒が評価基準を正しく理解した上でテストに臨むことができた。テスト後すぐに結果を返却したことで、生徒は適切なタイミングで振り返りを行うことができ、番号10の結果につながったと考える。

(c) 課題

- ①番号1の結果が令和3年度マイナス7.2ポイントであった。考査やパフォーマンステストを効果測定の間として、これらに向けた具体的な家庭学習の声掛けが必要である。

(d) 改善策

- ①テスト前や長期休業前に家庭での学習方法についてプリントで丁寧に説明する。家庭での学習方法は複数のやり方を示すことで、自らの学びに応じて生徒が選択して取り組めるようにはたらきかける。

令和4年度 生徒授業評価
【中3国語】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	25.8%	41.9%	28.4%	3.9%	67.7%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	61.3%	28.4%	7.7%	2.6%	89.7%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	59.4%	36.8%	1.3%	2.6%	96.1%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	81.3%	15.5%	0.6%	2.6%	96.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	91.6%	5.2%	0.0%	3.2%	96.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	84.5%	11.0%	1.9%	2.6%	95.5%
	7	発問や説明は適切である。	83.2%	12.9%	1.9%	1.9%	96.1%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	82.6%	14.2%	1.3%	1.9%	96.8%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	81.3%	14.8%	1.9%	1.9%	96.1%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	83.2%	11.0%	3.2%	2.6%	94.2%

<授業評価を受けて>

- (a) 取り組み
- ・各単元の学びのプランを「身に付けたい資質・能力」をポイントに据えて、作成し、生徒自身が見通しをもって学習に取り組めるようにしている。
 - ・家庭学習の習慣づくりとして、チャレンジ新聞、チャレンジ漢字、読書マラソンの課題提示を継続して行っている。
 - ・言語活動の設定を、総合的な学習の時間EGGの卒業論文作成や、卒業研究発表スピーチなどと結び付けて「身に付けたい資質・能力」を実践的に活用できるようにしている。また、「旅立ちのスピーチ」を設定し、高校進学に向けた意識の掘り起こしとつなげている。
- (b) 成果
- ・令和4年度の取り組みは、おおむね指導のねらいに達成していると考えられる。
- (c) 課題
- ①チャレンジ課題（自主的な学習課題）の提出がそろわないことがある。
 - ②生徒自身の学習のふりかえりとして、授業への参加態度の積極性（項目2）が令和3年度よりも上昇しているが、予習・復習など学習の準備（項目1）が令和3年度よりも下降している。
- (d) 改善策
- ①②卒業論文作成などおおきな言語活動の課題を抱えているからか、国語の自主学習まで手が回らないのかと考える。3年時の自主学習の 評価基準の変更を再考する。

令和4年度 生徒授業評価
【中3社会】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	32.7%	39.9%	22.9%	4.6%	72.5%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	63.4%	27.5%	7.2%	2.0%	90.8%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	58.8%	32.7%	6.5%	2.0%	91.5%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	78.4%	14.4%	3.9%	3.3%	92.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	88.9%	7.2%	0.7%	3.3%	96.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	85.6%	9.8%	0.7%	3.9%	95.4%
	7	発問や説明は適切である。	82.4%	11.8%	2.0%	3.9%	94.1%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	86.9%	9.2%	0.7%	3.3%	96.1%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	81.7%	11.8%	3.9%	2.6%	93.5%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	85.6%	9.2%	2.0%	3.3%	94.8%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①学びのプランを作成し、单元ごとに身に付けてほしい資質・能力を明確にして授業を行った。
- ②ペアワークやグループワークを用いて、生徒が主体的に授業に取り組めるようにした。
- ③教科会で検討した、ワークシートを用い、新たな教材開発に努めた。

(b) 成果

- ①見通しをもった学習を進めることができ、アンケート項目4で92.8%、6で95.4%の評価を得ることができた。
- ②主体的に授業に取り組む習慣をつけ、アンケート項目2で90.8%の評価を得ることができた。
- ③授業者がかつて行った授業とはちがう授業内容に取り組むことで、内容の充実を図ることができ、アンケート項目5で88.9%の評価を得ることができた。

(c) 課題

- ①アンケート項目4の「そう思う」の評価が78.4%と低いので、計画に沿った授業展開が課題である。
- ②アンケート項目1が、72.5%と一番低い結果となった。社会科の学習習慣の定着が課題である。
- ③アンケート項目3の「そう思う」の評価が58.8%と低い結果となった。「ややそう思う」の層を「そう思う」に上げることが課題である。

(d) 改善策

- ①学びのプランの内容に沿った授業展開を心がける。
- ②予習・復習がテスト前だけにならないように、常日頃からの学習習慣を身につけるようにする。
- ③復習を重視するように説明し、小テストを行うことで内容の定着を図る。

令和4年度 生徒授業評価
【中3数学】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	45.5%	33.8%	16.9%	3.9%	79.2%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	63.0%	27.9%	7.1%	1.9%	90.9%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	50.0%	32.5%	14.3%	3.2%	82.5%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	81.8%	14.9%	0.6%	2.6%	96.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	81.2%	14.3%	1.9%	2.6%	95.5%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	86.4%	8.4%	1.3%	3.9%	94.8%
	7	発問や説明は適切である。	77.9%	16.9%	2.6%	2.6%	94.8%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	80.5%	14.9%	1.9%	2.6%	95.5%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	79.2%	14.9%	3.2%	2.6%	94.2%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	83.1%	11.0%	3.2%	2.6%	94.2%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①副教材「完成ノート」について、「完成ノートチェックシート」を用いることで日常的に学習に取り組ませるようにした。</p> <p>②定期テストや基礎力診断テストの振り返りを毎回行った。また、振り返りノートの活用について指導することで、今後に生きる、有益な振り返りとなるよう指導した。</p> <p>③授業内での生徒の声を取り上げ、生徒間で学習を深められるように授業を展開した。</p> <p>④各テストにおいて基本的な問題を取り上げることで、反復学習を促した。</p> <p>(b) 成果</p> <p>①日々完成ノートに取り組む姿が見られた。</p> <p>②振り返りを通した個別のフィードバックの中で、きちんと振り返りを行うようになった。</p> <p>③問いに対して全員で考える雰囲気構築につながった。</p> <p>④回を追うごとに正答率が高くなり、基本的な問題に対する理解の定着につながった。</p> <p>(c) 課題</p> <p>・令和3年度と比較し、1, 2, 3の項目が軒並み低下してしまった。苦手意識が強く定着してしまったことに加え、過去2年の少人数授業と比較して、授業参加の態度に積極性が減ってしまったように思う。</p> <p>・「授業や先生について」の項目で、「そう思う・ややそう思う」の割合に対し、「ややそう思う」の割合が高めである。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>・学習の定着状況に応じてよりフォローができる体制を整える。</p> <p>・提出物や評価物に対する明確な指示を行い、生徒が安心して取り組める状況を整える。</p>
--

令和4年度 生徒授業評価
【中3理科】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	39.2%	41.2%	16.3%	3.3%	80.4%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	67.3%	24.8%	5.9%	2.0%	92.2%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	56.9%	34.0%	7.8%	1.3%	90.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	90.2%	7.2%	0.0%	2.6%	97.4%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	91.5%	4.6%	1.3%	2.6%	96.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	92.2%	4.6%	1.3%	2.0%	96.7%
	7	発問や説明は適切である。	92.8%	3.3%	1.3%	2.6%	96.1%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	91.5%	5.2%	0.7%	2.6%	96.7%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	88.9%	7.2%	1.3%	2.6%	96.1%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	93.5%	2.0%	2.0%	2.6%	95.4%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①南高校の教員によるチームティーチングを地学分野で行った。週に1回、高校の教員がT1として授業を行い、天文の学習では、より専門的な内容について学んだ。
- ②令和3年度に続いて、学習内容について自分で調べて理解を深める課題（自宅学習シート）を課した。地学分野では、学習内容をまとめる課題を設けた。
- ③実験結果の共有や、発表など、状況においてICT機器の活用を行った。

(b) 成果

- ①「主体的に、積極的に授業に参加している」や「授業で学習した内容はだいたい理解できている」の設問において、令和3年度に比べて「ややそう思う」と答えた生徒が減り、「そう思う」と答えた生徒が増えた。
- ②理科に関する興味・関心が強い生徒は、自宅学習シートで熱心に調べて、知識を広げたり理解を深めたりした。
- ③chromebookの使用は2年目になり、令和3年度よりもスムーズに機器を扱うことができ、工夫された発表ができるようになった。

(c) 課題

- ・年度当初の予定よりも、授業の進度に遅れが見られた。
- 理由① 教育課程が変わり、学習内容が変更されたため、思っていたよりも時間がかかった。
- 理由② 新型コロナウイルス感染症関係で、授業の回数が少なくなった。

(d) 改善策

- ・余裕をもって授業を進められるよう、年間指導計画を見直す。
- ・google classroomの活用など、アクシデントに対応する方法を考える。

令和4年度 生徒授業評価
【中3音楽】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	29.1%	39.2%	27.7%	4.1%	68.2%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	70.3%	23.0%	5.4%	1.4%	93.2%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	46.6%	38.5%	11.5%	3.4%	85.1%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	53.4%	35.1%	10.1%	1.4%	88.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	87.2%	12.2%	0.0%	0.7%	99.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	77.7%	20.3%	1.4%	0.7%	98.0%
	7	発問や説明は適切である。	83.1%	12.8%	3.4%	0.7%	95.9%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	76.4%	18.9%	4.1%	0.7%	95.3%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	89.2%	8.1%	1.4%	1.4%	97.3%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	91.2%	6.1%	0.7%	2.0%	97.3%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

1. 歌唱、合唱については、コロナ禍の教育制限の中、理論的なものを中心に行った。
2. 生徒の音楽理論曲の統一した定着をはかった。(例 音符、休符のながきなど)
3. 楽しく、よりよい表現をするため曲のアナリーゼを重点的に行った。

(b) 成果

1. コロナ禍における教育制限の中であったが、曲に対する理解は深めることが出来た。
2. 基礎を大切に、応用についての理解が深まり、探求する姿もみられた。
3. より深い表現をするのに役立った。

(c) 課題

1. 教育制限の緩和を受けた表現力の助長に力を入れてゆく。
2. もう少し丁寧な説明が必要である。
3. もう少しわかりやすい説明が必要である。

(d) 改善策

1. 表現分野について、鑑賞教育とリンクさせた指導を行う。
2. ていねいに説明していく。
3. 資料作成にあたりさらに工夫をする。

令和4年度 生徒授業評価
【中3美術】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	33.8%	35.8%	23.0%	7.4%	69.6%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	78.4%	16.9%	4.7%	0.0%	95.3%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	74.3%	20.9%	4.7%	0.0%	95.3%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	94.6%	4.1%	0.0%	1.4%	98.6%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	90.5%	7.4%	1.4%	0.7%	98.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	93.2%	4.7%	0.7%	1.4%	98.0%
	7	発問や説明は適切である。	91.9%	6.8%	0.7%	0.7%	98.6%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	89.2%	8.1%	2.0%	0.7%	97.3%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	93.2%	4.7%	0.0%	2.0%	98.0%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	90.5%	6.8%	1.4%	1.4%	97.3%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み
各課題において、1・2年生で学んだ部分も踏まえ、表現の基礎を理解させるように進めていった。年間の授業計画に合わせて生徒個人個人の課題の進捗状況を確認しながら行った。

(b) 成果
一人一人に表現の仕方や完成度に差はあるが、対象のとらえ方や作品への落とし込み方が上手に出来るようになった。
生徒個人個人の取り組みを細かく観察・理解し、評価できた。
時間数が少ないので、課題制作で各生徒の制作スピード合わせることが大変であったが、生徒たちが自ら補習の時間を要望し、主体性を育む情業ができた。

(c) 課題
個人の技能の差があり、それが意欲の差にもなっているため、いかに楽しませて導入していくかが鍵である。
年度当初に年間計画の説明をしているが、もともと授業時間数が少ないので、時間割変更等で苦しんだ。よって制作のペースを上げざるを得なかったし、美術が苦手な生徒にもっと楽しめる時間をつくる工夫が必要である。

(d) 改善策
生徒の自主性を高めるため、自発的創作活動時間を多めにとり、個別に丁寧にアドバイスをしていく。より美術の魅力を伝えられる導入計画を考える。各クラスを同じ授業時間数に揃える。

令和4年度 生徒授業評価
【中3体育】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	40.5%	39.9%	16.2%	3.4%	80.4%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	77.7%	18.2%	2.0%	2.0%	95.9%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	68.2%	27.7%	4.1%	0.0%	95.9%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	91.2%	6.8%	0.7%	1.4%	98.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	90.5%	6.8%	0.7%	2.0%	97.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	87.8%	8.1%	2.0%	2.0%	95.9%
	7	発問や説明は適切である。	81.8%	12.8%	2.0%	3.4%	94.6%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	80.4%	11.5%	5.4%	2.7%	91.9%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	78.4%	15.5%	2.7%	3.4%	93.9%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	70.9%	13.5%	8.8%	6.8%	84.5%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①単元ごとに学習カードを用い、生徒が各種目の特性を理解できるようオリエンテーションを行うことで、活躍の仕方や仲間との関わり方について考えて授業に取り組めるよう指導した。
- ②生涯にわたって運動を豊かに実践することを目指し、1学年、2学年での学習を踏まえ、さらに追求・挑戦・克服したい種目を自ら選び、より一層運動の楽しさや喜びを味わえるよう、3学年では種目選択制を取り入れている。

(b) 成果

- ①②第3学年で種目選択制となったことで、昨年度に比べ自主性が伸び、自己の課題や目標を自ら探し積極的に達成しようとする取り組み姿が見られた。

(c) 課題

- ①提出物や成績の評価について、各単元ごとに学習カードに評価規準を記載しているが、「そう思う、ややそう思う」の回答が84.5%であった。
- ②学習した内容の定着度・習熟度については「そう思う」の回答が68.2%であった。

(d) 改善策

- ①各単元ごとに学習カードに評価規準を記載しているが、単元のまとめの際に再度評価について触れるなど、細かいくりで評価の相互理解を行うようにしたい。
- ②技能の習得に時間を要する種目については、個人の練習時間を充分確保し一人一人がじっくりと練習できる時間を設けたい。また、チームスポーツに関しては、プレーの中で仲間の動きや対戦相手、その時の状況に応じた技能を発揮する必要があるため、より実践的な練習を多く取り入れることで技能の習得を図りたい。

令和4年度 生徒授業評価
【中3技術】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	37.8%	37.2%	20.3%	4.7%	75.0%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	76.4%	19.6%	2.7%	1.4%	95.9%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	56.8%	33.1%	9.5%	0.7%	89.9%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	83.8%	12.8%	2.7%	0.7%	96.6%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	87.8%	8.8%	2.0%	1.4%	96.6%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	85.8%	12.2%	1.4%	0.7%	98.0%
	7	発問や説明は適切である。	81.8%	14.9%	2.0%	1.4%	96.6%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	85.8%	11.5%	2.0%	0.7%	97.3%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	87.8%	9.5%	0.7%	2.0%	97.3%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	92.6%	6.1%	0.0%	1.4%	98.6%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①多くの種子の種類を生徒自身で同定させたいと、自身が植物の育成計画を作成し植物の育成に取り組んだ。
- ②「プログラミング的思考」をプログラミングを通して体現する。

(b) 成果

- ①多くの生徒が調べ学習を通して大部分の植物で正しい植物を特定したうえで、植物の育成に取り組めた。
- ②生徒自身が自分でプログラムを組み、動作を確認してデバッグを行うことができた。

(c) 課題

- ①自宅に持ち帰っての課題であったため生徒の実習の進捗を確認し辛かった。
- ②授業開始時点でのプログラミングの知識にばらつきがあり、生徒によって習熟度の差が大きくなった。

(d) 改善策

- ①中間レポートの提出を求めるなど進捗を確認できるようにし、困っている生徒の把握に努めたい。
- ②もう少し細かいステップで課題を設定し、初めてプログラミングに取り組む生徒とプログラミングに慣れている生徒の両方が意欲的に課題に取り組めるようにしたい。

令和4年度 生徒授業評価
【中3家庭科】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	43.9%	38.5%	14.9%	2.7%	82.4%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	83.8%	13.5%	1.4%	1.4%	97.3%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	76.4%	19.6%	3.4%	0.7%	95.9%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	87.8%	11.5%	0.0%	0.7%	99.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	93.2%	4.1%	2.0%	0.7%	97.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	96.6%	2.0%	0.0%	1.4%	98.6%
	7	発問や説明は適切である。	93.2%	4.1%	2.0%	0.7%	97.3%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	92.6%	5.4%	0.7%	1.4%	98.0%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	93.2%	6.1%	0.0%	0.7%	99.3%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	89.9%	7.4%	1.4%	1.4%	97.3%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- 多くの中学生にとって、あまり親しみのない幼児の生活について学習するにあたり、自分自身の振り返りや、家族のことなど、身近なことからアプローチし、取り組みやすくなるよう工夫した。
- 保育園児との交流ができなかった時間は、授業展開に余裕をとることに活用した。

(b) 成果

- 保育園児との交流ができなかったぶん、授業の展開にゆとりを持たせたことで、生徒たちは一つの課題に落ち着いて取り組み、幼児の発達や生活の様子に興味を持たせることができた。
- おやつ作りを個人作業で実習させたことにより、友達に頼らず必ず自分で作るという体験をさせることができた。

(c) 課題

- 幼児との触れ合いだけでなく、日常生活における生活体験が不足がちな生徒にとって、多くの実習を取り入れた授業展開は、欠かすことができないものであるが、現状は厳しいものがある。

(d) 改善策

- まだまだ感染状況は厳しいところではあるが、保育園の協力を得て、交流活動を再開していきたい。

令和4年度 生徒授業評価
【中3英語】 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	48.1%	32.5%	13.6%	5.8%	80.5%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	71.4%	20.8%	4.5%	3.2%	92.2%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解ができ、また身に付いている。	65.6%	22.7%	10.4%	1.3%	88.3%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	86.4%	9.7%	2.6%	1.3%	96.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	86.4%	7.8%	3.2%	2.6%	94.2%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	83.1%	11.0%	3.2%	2.6%	94.2%
	7	発問や説明は適切である。	85.1%	8.4%	3.2%	3.2%	93.5%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	89.0%	4.5%	3.9%	2.6%	93.5%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	90.9%	4.5%	1.9%	2.6%	95.5%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	90.3%	5.8%	0.6%	3.2%	96.1%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

① 各ラウンド導入の説明でそれぞれの「身につけたい力」「そのために取り組めること」をプリントとともに説明し、その後生徒自身で「どのように学ぶか」を考え、書いてまとめる機会を設けた。また、各ラウンドの途中に再度それらを確認することで、主体的に取り組む姿勢を自ら修正する機会を設けた。また、生徒が先を見通し、目的意識をもって学習に取り組めるよう年間計画を明確に示し、学びのプランを活用した。

② 英語によるコミュニケーションにおいては、「わからない」ことを当然としながら、その場で教員と英語で確認したり、生徒同士で話し合う機会を多く設けた。生徒が英語で考え、英語のやり取りで授業が進むことになれるように授業を行った。

(b) 成果

① 各ラウンドの途中に振り返りの時間を設けることで、今の自分に何が必要なのかを自らの学習を振り返る時間を持つことができた。このことで、項目1～3について「そう思う」と答えた生徒は増えたが、同時に、「あまりそう思わない」と答えた生徒も増えている。自らの取り組みを振り返る機会とはなったが、修正につなげるためには不十分であったと考えられる。項目4については、令和3年度と同様の結果を示している。

② 生徒の「言いたかったこと」を易しい英語で言い換えたり、どのように言いたいのかを質問したりすることで、生徒が自分の伝えたいことを英語で伝えられるように適切にアシストすることができた。このことにより、教師や生徒同士のやりとりに自信を持ち、積極的に参加している生徒は令和4年度より増加した。

(c) 課題

① 生徒を理解し公平であろうと心掛け、易しい英語を用いて授業を行ってきたが、項目9は令和4年度よりマイナス1%であった。生徒との信頼関係を今一度築き、安心して質問ができる環境をつくる必要がある。

② 項目3の評価が、令和3年度より5%下がった。「わかった」「身に着いた」と感じられる場面が不十分と考えられる。

(d) 改善策

① すべての生徒が安心して質問などができるように、個に応じた支援・指導を意識する。

② 日々の授業から、生徒の取り組みを肯定し、また成長に気づかせられるような声かけを心がけていく。